

第16回アジア競技大会／中国・広州大会 平成22年11月12日(金)～27日(土)

1 カヌー競技 成績 カヤック・ダブル：200M 優勝 1000M 3位

- 選手・役員
- ①学 生：水本 圭治さん (人間科学4年) 選手
 - ②同窓生：松代 尚也さん (昭和63年3月 宗教学卒業) コーチ



2 カバディ競技 成績 3位

- 選手・役員
- ①学 生：下川 正将さん (社会福祉学専攻4年) 選手
 - ②同窓生：井藤 圭順さん (平成5年 仏教学科卒業) 監督
 - ③同窓生：藤井 玄さん (平成6年 社会福祉学科卒業) コーチ
 - ④同窓生：太田 正之さん (平成17年 史学科卒業) 選手
 - ⑤同窓生：井藤 光圭さん (平成11年 仏教学科卒業) 選手
 - ⑥同窓生：高橋 弘実さん (平成20年 歴史文化学科卒業) 選手
 - ⑦同窓生：櫛岡 亮恵さん (平成21年 仏教学科卒業) 選手



- ⑧同窓生：高野 一裕さん (平成20年 仏教学科卒業) 選手
- ⑨同窓生：河合 陽児さん (平成10年 社会学科卒業) 選手
- ⑩同窓生：新田 晃千さん (平成9年 史学科卒業) 選手

鴨台会報 obdaikai

大正大学 鴨台会報

思ひ出の母校 道心寮

大正大学の今と昔を繋ぐ、建物、人、活動をご紹介します。

平成22年9月13日 杉谷理事長をはじめ、常任理事、執行部、各宗派の元寮監・副寮監、そして道心寮に入寮していた大学事務職員など約50名の出席者のもと、埼玉校舎にある道心寮の解体式が執り行われました。

道心寮は昭和53年4月の第一期生(91名)が入寮して以来、平成10年の第21期生まで、2,266名の学生を受け入れ、僧道教育に寄与してきました。閉寮後は、集中講義の宿泊施設として活用された時代もありましたが、巣鴨校舎への授業移行に伴いその役目を終えました。埼玉校舎の開校以来、多くの学生が学んだ施設でしたが、老朽化も進み、一般の施設解体に至りました。

入寮していた学生は、僧侶の資格を取得するために1年間(平成5年入寮の16期生からは3ヶ月)をこの寮で過ごしました。学生達のおおまかな1日は、朝の点呼に始まり掃除、朝勤行、朝食の後、各目の授業へと向かいました。授業が終わり寮へ戻ると、夕方の勤行、その後、夕食、入浴となり22時の消灯までは自由時間でした。

入寮期間の団体生活は、自分が属する宗派の学生はもちろん、他宗派の学生とも交流が深く、そうした仲間と現在も集まり交流を深めている卒業生達がいまもいます。

同窓会(鴨台会)、大学としてもこの卒業生たちの交流を、かけがえのない財産として、末永く続くようサポートするため、元浄土宗寮監であった小此木輝之教授を代表とした「道心寮鴨台会発足準備委員会」が学内において発足しました。第1期生から第21期生までの、各入寮期、宗派別に84の部会の立ち上げ活動する計画です。

卒業生の皆様にこの「道心寮鴨台会(仮称)のご案内が届きました折はどうぞ入会いただき、相互の交流をさらに深める機会としていただきたいです。

道心寮の建物は無くなってしまうが、卒業生達の絆はこれからも続いていくのです。



解体時道心寮外観



解体式の様子



歴代寮監長

- 大正大学同窓会「鴨台会」会長 里見 達人会長ご挨拶 2p
- 大正大学同窓会「鴨台会」前会長 大室 了皓会長ご挨拶 2p
- 平成22年度 理事会報告 3p
- 大正大学の新基軸 中期マスタープランを推進し 社会的責任を果たす大学を目指す 6p
- 同窓会の新しい組織 (仮称)鴨台倶楽部のご案内 8p
- 同窓生からのメッセージ 9p
- 【特集】新しいキャンパス 変わらない絆 10p
- 同窓会ニュース 支部便り・同期会便り 13p

平成23年2月18日発行
大正大学 同窓会「鴨台会」
〒170-8470 東京都豊島区西巣鴨3-20-1
TEL.03-5394-3031 FAX.03-5394-3014

2011 FEBRUARY
Vol. 93

皆様の声をお待ちしております。

本誌をお読みになった感想、学生時代の思い出、近況など、皆様の寄稿をお待ちしております。また、先生方やサークルの近況、昔よく行ったお店の今など、取り上げて欲しいトピックスなどありましたら、どうぞお知らせください。



大正大学同窓会「鴨台会」会長
里見 達人

御挨拶

このたび大室了皓先生のと、鴨台会(同窓会)会長の御指名を受けました。茲に、謹んで卒業生の皆さまに御挨拶を申し上げます。私は昭和21年(1946年)9月、旧制度の大正大学文学部を卒業した、東京の里見達人と申します。

私の世代は、あの激しい太平洋戦争を大学在学中に経験し、学生の相当数は戦地から再び戻ってまいりませんでした。

昭和20年、アメリカ空軍の空爆により焼け野原となった東京で、奇跡のように焼け残った大正大学に、終戦のあと、私を含めて生き残った学生が少しずつ戻ってきて、大学が再開されました。

以来、60余年、大正大学は幾多の危機を、その都度に大学を愛する卒業生たちの熱い思いと、それを授ける宗団の力によって乗り越えてまいりました。

古い卒業生であるが故に、私は久しく学校法人の役員の一員として遇してまいりましたので、創立90年を迎える現在、すべての私立大学が未曾有の困難に遭遇していることを、身をもって感じております。

いま、各私立大学は生き残りをかけて全力をあげております。わが大正大学も例外ではありません。しかし、建物、施設の面で、いささか遅れてしまっております。

4学部をもつ本学が、いまにして他大学と比肩を得るために、私は鴨台会会長として老骨に鞭うつ覚悟でおります。

卒業生、皆さまの温かい御支援を母校・大正大学にお寄せくださることを切に御願ひ申し上げます。

平成22年度 理事会報告

平成22年5月27日(木)、本年度大正大学同窓会「鴨台会」理事会が開催された。上程された議案と審議内容は以下の通り

1号議案 役員改選の件

同窓会役員3年の任期満了により各ブロックから常任理事が選出された。その後、新常任理事により常任理事会が開催され、新会長に東京都支部長の里見達人氏、副会長に宮城県支部長の樋口隆信氏、埼玉県支部長の吉田宏哲氏、神奈川県支部長西郊良光氏、東京都副支部長の寺本亮洞氏、福井県支部長の重森俊道氏、大阪府支部長の山田瑞祥氏が選出され、理事会にて承認された。また、新会長より前会長の大室了皓氏が顧問として推薦され理事会にて承認された。さらに監事に東京都副支部長の長島高道氏が理事会推薦され承認を得た。

(別表資料1参照)

2号議案 平成21年度事業報告の件

平成21年度開催された各種会議を始め各支部および部会や同期会等の活動が報告された。総会17支部、理事会・理事総会4支部、常任理事会1支部、役員会2支部、理事会を含めた総会・公開講演会3支部(群馬・愛知・南九州)同期会等の活動は13回開催された。年2回の会報の発行。また昨年度卒業生への記念品として記念切手を大学と共同で作成し贈呈をした。

3号議案 平成21年度決算の件

(別表資料2参照)

4号議案 大正大学同窓会会則改正の件

会則変更の要点としては、第5条現行会則の会員の条件を詳細にし、正会員として定める。また、第6条3項では本学卒業生以外の教職員の入会を認めた。第8条役員員の選出では、項目の詳細化、登録鴨台会発足により登録鴨台会から理事が選出されるため、新たな項目を設けた。第11条会議では、同窓会における各種会議の位置づけ並びに構成員の明文化を行った。それに伴い委任状規定等の整備を行った。また理事会・常任理事会の議長について選出方法を変更した。第6章支部では、都道府県支部に関する会則を規程に移動し新規規程を作成した。また登録鴨台会設立にともない支部規程と共に「都道府県支部並びに登録鴨台会に関する規程」を新設した。(別表資料3参照)これまでの、各部会(教職・高校・社会教育・職域)を廃止し、登録鴨台会への移行を図る。また特定の目的をもった委員会を設置できる会則を新設した。

5号議案 平成22年度事業計画書の件

例年通りの計画案に、平成21年度行った賛助会費募集について、創立90周年記念事業にかかわる勧募が控えているため、勧募期間の今後3年間の賛助会費募集を休止することが承認された。



大正大学同窓会「鴨台会」前会長
大室 了皓

過ぎし6年を顧みて

長いようで、夢のように過ぎた短い6年でした。着任して私の机が無いことに気付き、用意していただき、大きな机でした。

「この前に座って、さあやるか」と意気込みましたものの、何を始めたらいのか全く見当も付きませんでした。事務局の方々の助言を得て会長事務にとりかかりました。

当時の事務局は4宗派からの4人と大学より出向の2人の計6人によって構成されていました。大学からの2人は常勤、宗派からの4人は非常勤でした。

小さな応接セット1組が入ると机で一杯のような狭い事務局の部屋でしたが、6人の局員の気持が一つになって、困難な同窓会事務が滞りなく行われました。

ホームカミングデイ行事、各地の支部活動支援のための計画・出張、特にサイパン島における戦没者慰霊碑建立と慰霊法要の実施などの支援に当たりましての局員諸氏の活動には頭が下がりました。

一つだけ心に残るのは、カンボジアに同窓会が建築した大正小学校への現地視察とその充実を実現できなかったことです。

いづれにしましても、この度、私の畏敬する里見達人新会長様のもと、さらなる同窓会の発展を心より祈念申し上げます。

6号議案 平成22年度予算案の件

(別表資料4参照)

7号議案 その他

「同窓会60周年記念事業及び同窓会再編に関する検討委員会」報告の件
これまで同窓会再編に関わる検討委員会この検討事項の報告があり、引き続き新会長のもと再編についての検討を進めて行くとの報告があった。また同窓会60周年記念事業においては、現在、祝賀会の実施、学内への戦没者慰霊碑建立、在学生支援制度の整備等が記念事業ということで提案されて



いる。以上の提案に対し実施をするための小委員会を設立して具体化をしていく。

大正大学同窓会「鴨台会」保有基金寄託の件

平成21年の理事会にて常任理事会の決議をもって基金寄託の件について実施をするということになっており、平成22年3月25日常任理事会において、覚書等の書類を確認し大正大学同窓会「鴨台会」保有基金寄託を決定、即日大室前会長と杉谷大正大学理事長との間で寄託手続きを行ったことが報告された。

大学からの提案

大正大学創立90周年記念事業に関わる勧募活動推進について

キャンパス総合整備計画の進捗状況と今後の計画について説明がなされ、勧募活動の必要性が説明された。今回の勧募活動は設立宗派を中心に展開していくが、同窓会各支部の中でも支部長、副支部長の役員の方々に勧募推進委員として勧募活動を後援していただきたいとの依頼があった。

以上の議案について、議決された。

今回の理事会では、新たに里見達人氏が同窓会会長に就任し、登録鴨台会も活動を開始することとなった。また、2012年に同窓会設立60周年を迎えるにあたり、記念事業の策定も取り急ぎ検討し、具体化をしていかねばならないなど、さまざまな課題がある。大学側においても創立90周年記念事業にかかる勧募活動が始まり、同窓会「鴨台会」としても歩調を合わせていくこととなる。今後もより一層、会員相互が結束し、大学との連携を図り、課題を一つ一つ解決していくことが必要であろう。

資料4 平成22年度 大正大学同窓会予算書

自：平成22年4月1日 至：平成23年3月31日

収入の部				
科目	今年度予算	前年度予算	増減	備考
I 終身会費	31,567,500	30,195,000	1,372,500	4,209名@7,500円
II 預金利息	2,350,000	3,200,000	△850,000	
III 賛助会費繰入	0	5,000,000	△5,000,000	賛助会費募集休止
IV 雑収入	50,000	50,000	0	賀儀等
V 繰越金	23,764,551	8,542,264	15,222,287	
VI 寄付金	1,000,000	0	1,000,000	同窓会基金寄託における預金利息相当額
合計	58,732,051	46,987,264	11,744,787	

(単位：円)

支出の部				
科目	今年度予算	前年度予算	増減	備考
I 支部等事業費	25,850,000	24,500,000	1,350,000	
1、会報発刊費	4,050,000	2,000,000	2,050,000	会報作成費 年3回発行予定
2、会報・鴨台発送費	6,300,000	7,000,000	△700,000	3回発送予定
3、講演会費	4,000,000	1,500,000	2,500,000	公開講演会 6回開催予定
4、旅費交通費	5,500,000	5,500,000	0	理事会・常任理事会旅費、 役員・講師等、出張費を含む
5、支部等事業助成金	6,000,000	8,500,000	△2,500,000	支部、登録鴨台会、 同期会等助成金
II 在学生支援事業費	8,145,000	8,400,000	△255,000	
1、新会員歓迎費	3,345,000	3,600,000	△255,000	卒業・修了予定1,115名 @3,000円
2、在学生助成金	4,300,000	4,300,000	0	在学生奨学金200万、クラブ助成 200万、謝恩会助成30万
3、银杏祭補助金	500,000	500,000	0	银杏祭実行委員会へ支出
III 本部運営費	7,400,000	8,100,000	△700,000	
1、会議費	3,500,000	3,500,000	0	理事会・常任理事会・ 役員会等
2、通信費	500,000	500,000	0	
3、事務費	1,500,000	2,000,000	△500,000	
4、慶弔費	500,000	500,000	0	
5、消耗品費	100,000	100,000	0	
6、雑費	300,000	300,000	0	
7、人件費	0	200,000	△200,000	
8、渉外費	1,000,000	1,000,000	0	
IV 積立金	15,000,000	0	15,000,000	平成21・22年度分
V 予備費	2,337,051	5,987,264	△3,650,213	
合計	58,732,051	46,987,264	11,744,787	

(単位：円)

第6条 登録鴨台会は、以下の事項により登録を抹消し解散する。
2 登録鴨台会より解散の申請が提出されたとき
3 所定の回数以上に会員名簿の更新がなされないとき
4 登録鴨台会として反社会的行為を行ったとき

第7条 本規程の改廃は、理事総会出席理事の3分の2以上の同意により行う。

4 登録鴨台会は、次の各号に定める事項に異動または変更が生じたときは、直ちに本部事務局に届け出るものとする。
1) 会長、副会長、事務局長
2) 事務所の所在地

5 登録鴨台会は3年ごとに会員名簿を更新し本部事務局に提出する。
6 各登録鴨台会の経費は会費、寄付金及びその他の収入をもって支弁する。

第5条 登録鴨台会は、以下の条件を満たし活動する。
2 登録鴨台会の各会名称には「鴨台」入れることができる。
3 登録鴨台会には、次の役員を置く。

- 1) 会長 1名
- 2) 副会長 1名
- 3) 事務局長 1名
- 4) その他登録鴨台会が必要と認める役員

平成21年度 大正大学同窓会決算書

自：平成21年4月1日 至：平成22年3月31日

収入の部			
科目	予算額	決算額	増減
I 終身会費	30,195,000	30,585,000	△390,000
II 預金利息	3,200,000	3,600,054	△400,054
III 賛助会費繰入	5,000,000	5,000,000	0
IV 雑収入	50,000	40,186	9,814
V 繰越金	8,542,264	8,547,264	0
合計	46,987,264	47,767,504	△780,240

(単位：円)

支出の部			
科目	予算額	決算額	増減
I 支部等事業費	24,500,000	13,922,629	10,577,371
1、会報発刊費	2,000,000	2,129,662	△129,662
2、会報・鴨台発送費	7,000,000	3,852,649	3,147,351
3、講演会費	1,500,000	850,000	650,000
4、旅費交通費	5,500,000	3,211,068	2,288,932
5、支部等事業助成金	8,500,000	3,879,250	4,620,750
II 在学生支援事業費	8,400,000	5,017,854	3,382,146
1、新会員歓迎費	3,600,000	2,517,854	1,082,146
2、在学生助成金	4,300,000	2,300,000	2,000,000
3、银杏祭補助金	500,000	200,000	300,000
III 本部運営費	8,100,000	5,062,470	3,037,530
1、会議費	3,500,000	2,876,370	623,630
2、通信費	500,000	249,920	250,080
3、事務費	2,000,000	976,891	1,023,109
4、慶弔費	500,000	101,500	398,500
5、消耗品費	100,000	7,567	92,433
6、雑費	300,000	7,954	292,046
7、人件費	200,000	0	200,000
8、渉外費	1,000,000	842,268	157,732
IV 積立金	0	0	0
V 予備費	5,987,264	0	5,987,264
合計	46,987,264	24,002,953	22,984,311

(単位：円)

収入の合計① 47,767,504
支出の合計② 24,002,953
差引残高(①-②) 23,764,551 (平成22年度へ繰越)

資料2 平成21年度 大正大学同窓会賛助会費決算書

自：平成21年4月1日 至：平成22年3月31日

収入の部	
項目	金額
平成20年度繰越金	7,538,469
平成21年度賛助会費	2,741,270
預金利息	2,176
合計	10,281,915

(単位：円)

支出の部	
項目	金額
経常費繰入金	5,000,000
サイパン島慰霊碑維持管理に係る費用	174,240
サイパン島出張に係る諸費用	283,904
カンボジア大正小学校助成金	705,698
賛助会費依頼印刷代	147,000
賛助会費お礼状発送代	26,720
振り込み手数料	630
合計	6,338,192

収入の合計① 10,281,915
支出の合計② 6,338,192
差引残高(①-②) 3,943,723 (平成22年度へ繰越)

資料3 都道府県支部および登録鴨台会に関する規程

第1条 この規程は、大正大学同窓会「鴨台会」(以下、「鴨台会」)会則第24条第2項並びに第25条第2項に基づいて定めるものであり、都道府県支部および登録鴨台会に関する事項については、この規程の定めるところによる。

第2条 支部の設置並びに解散については、理事総会の承認を受けるものとする。年度途中に支部の設立並びに解散が行われた場合は、後日理事総会の承認を受けるものとする。

第3条 支部は、都道府県単位の組織とする。
2 支部は会員数が少数である等の理由がある場合、複数の都道府県を集約して設置することができる。
3 支部に、次の役員を置く。

- 1) 支部長 1名
- 2) 副支部長 若干名
- 3) 事務局長 1名
- 4) その他支部が必要と認める役員

4 支部は、次の各号に定める事項に異動または変更が生じたときは、直ちに本部事務局に届け出るものとする。

- 1) 支部長、副支部長およびその他の支部役員
- 2) 支部規約
- 3) 事務所の所在地

5 前項第2号所定の支部規約には、次の各号に定める事項について規定するものとする。
1) 支部長、副支部長およびその他の支部役員
2) 前号に規定する役員を選出する方法
3) 支部規約の改正手続
4) その他、支部活動に必要な事項

6 各支部の経費は支部会費、寄付金及びその他の収入をもって支弁する。

第4条 登録鴨台会は、「鴨台会」会則第5条1号に定める正会員が任意に組織できる団体であり、以下の手続きを経て設置することができる。
2 10名以上の正会員のみで組織し、所定の登録用紙によって申請する。

3 申請された登録鴨台会は、理事総会の承認を経て発足する。

資料1 正副会長・常任理事・理事員数表 (平成23年1月現在)

ブロック	支部名	理事氏名	宗派	役職名	副会長枠	常任枠	理事枠
第1	北海道第一支部	山口 道雄	天	理事	1	1	1
	北海道第二支部	井畑 定孝	浄	常任理事			
第2	青森県支部	調整中		—	1	2	1
	岩手県支部	菅野 成寛	天	理事			
	秋田県支部	石山 節美	浄	常任理事			
	宮城県支部	樋口 隆信	浄	副会長			
	山形県支部	渋谷 信一	浄	理事			
	福島県支部	遠藤 顕道	浄	理事			
第3	群馬県支部	北條 哲成	浄	常任理事	1	4	1
	栃木県支部	伴 乃昶	浄	常任理事			
	茨城県支部	清水 敏孝	浄	常任理事			
	埼玉県支部	吉田 宏智※ 宮本 慶通	智 豊	副会長 理事			
第4	千葉県支部	土川 峰仙※	智	常任理事	1	3	2
		松崎 恵水	豊	理事			
	神奈川支部	西郊 良光※	天	副会長			
		本間 孝康	天	理事			
		山梨県支部	桑原 勇慈	浄			
長野県支部	兼子 展世	浄	理事				
第5	東京都支部	里見 達人※	浄	会長	1	4	6
		福西 賢光	浄	理事			
		加藤 精一	豊	常任理事			
		寺本 亮洞	天	副会長			
		清水 博雅	智	常任理事			
長島 尚道	時	監事					
第6	静岡県支部	安井 隆義	浄	常任理事	1	2	1
	愛知県支部	安部 隆完	智	常任理事			
	三重県支部	野田 義道	天真	理事			
	岐阜県支部	楳生 康文	天	理事			
第7	新潟県支部	籠島 浩恵	浄	理事	1	1	1
	富山県支部	泉 清孝	浄	理事			
	石川県支部	水元 栄運	浄	理事			
	福井県支部	重森 俊道	浄	副会長			
第8	京都府支部	田中 良昌	天	理事	1	0	0
	滋賀県支部	調整中		—			
	大阪府支部	山田 瑞祥	浄	副会長			
	奈良県支部	桂 大瀧	浄	理事			
	兵庫県支部	村田 俊明	浄	理事			
和歌山県支部	未組織		—				
第9	山口県支部	加藤 善雄	浄	理事	1	1	1
	岡山県支部	青野 義昭	天	常任理事			
	島根県支部	近江 隆寛	浄	理事			
	広島県支部	能登原 昌史	浄	理事			
	鳥取県支部	米田 良中	天	理事			
	愛媛県支部	白石 大峰	智	理事			
第10	高知県支部	海老塚 和秀	智	理事	1	1	1
	東四国支部	松下 龍雄	御	理事			
	西九州支部	里見 秀明	智	理事			
	福岡県支部	波多野 聖雄	浄	常任理事			
	大分県支部	寺田 豪明	天	理事			
第11	熊本県支部	上田 祐規	浄	理事	1	1	1
		南九州支部	野中 玄雄	天			
第12	宗派代表	服部 光喜	浄	理事	1	4	4
		調整中		—			
		池田 宗讓	天	理事			
		疋田 精俊	智	常任理事			
第12	教員代表	塩入 法道	天	理事	1	4	4
		廣澤 隆之	智	理事			
		廣川 堯敏	浄	理事			
木村 秀明	豊	常任理事					
10ブロック	44支部 未組織1支部	役員・役職総数		6	22	59	

※印は複数議席を持つ支部の支部長

任期：平成25年3月31日

大正大学の 新基軸

中期マスタープランを推進し 社会的責任を果たす大学を目指す

日本初 個別大学のSRへの取り組み

企業経営においてSR（社会的責任）への取組みが重要視されているように、大学もさらに社会との結びつきを深め、教育・人材育成、研究、地域・社会貢献等、さまざまな面において質の高い成果・サービスを提供し、責任を果たしていくことが求められています。大学のステークホルダー（関係者）は、学生、保護者、卒業生、地域、企業など多岐にわたります。これらの人々の期待に応え、満足度を高めていくことにより、ひいては本学の社会的価値を高め、さらに本学とそれにかかわるすべての人たちがともに成長・発展していく。こうしたマネジメントをTSR（大正大学の社会的責任）と名づけ、中期マスタープランの中核にしています。

PCDAサイクルで成果を具体化

TSR活動をより効果的に展開するために、教育や大学運営など、あらゆるマネジメントにおいて「PCDAサイクル」を実践しています。

PCDAとは「P（プラン）」「D（DO・実行）」「C（チェック）」「A（アクション）」の略。例えば、専門科目を深く学ぶための基礎や学力を高めていくための授業、幅広い知識や教養を身につける科目の開講、キャリア育成を目的としたプログラムなど多様化した教育カリキュラムの運営については、大学が十分な時間をかけて計画を立て、実行に移し、チェックされ、改革や改善が行われます。また、教員が学生の達成目標や成績をチェックするだけでなく、学生も各期ごとのアンケートによってカリキュラムの内容や満足度を評価しています。このように、PCDAサイクルによる教育活動のマネジメントは、授業をする立場の教員と受講する学生との連携によって、より実効性のあるものに深化していくのです。

さらに、学生サービスの向上や社会とのネットワークづくりなどにおいても、さまざまな検証を重ねながら、教職員一体となって取り組んでいます。

平成23年4月、人間学部「教育人間学科」「人間環境学科」を新設

TSRが社会との接続、貢献を担いとした概念であることはすでに述べた通りですが、来春人間学部に誕生する新学科も、社会的ニーズに応え、より社会に踏み込んでいく教育内容となっています。

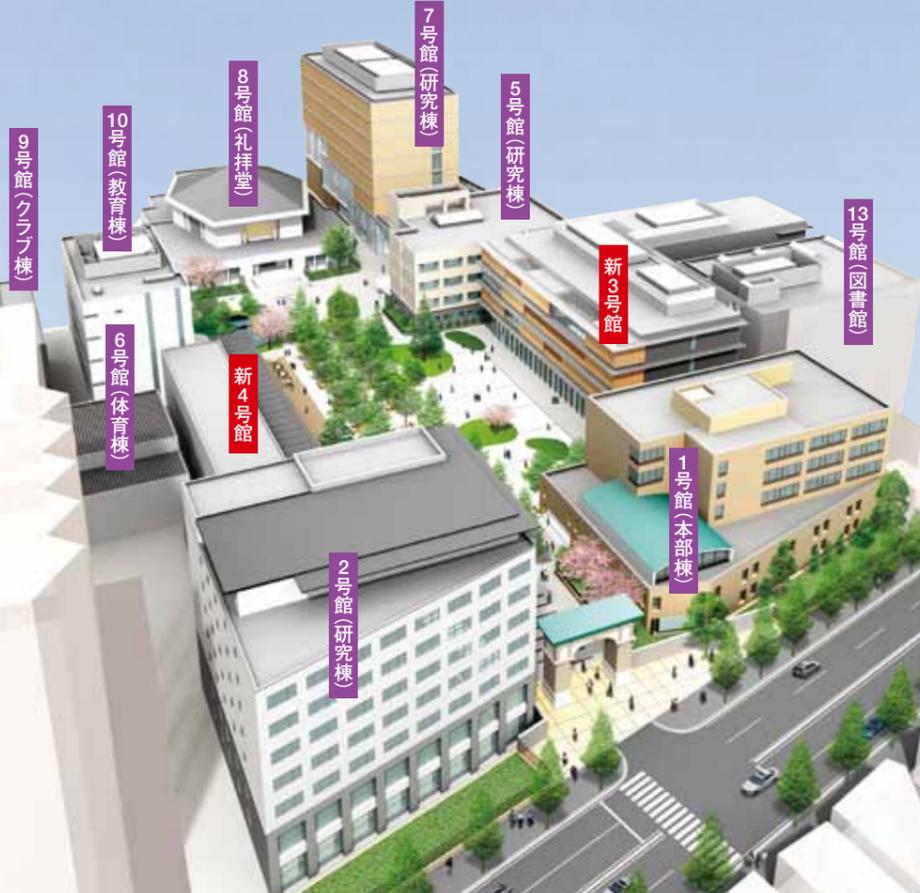
「教育人間学科」のテーマはコミュニケーション力（人とつながる力）。教育と人間を共通のキーワードに、人間の心理（こころ）・思考・スピリチュアリティや、社会・教育・伝統文化に関する多彩な学問を通じて、「人と人のつながり」について科学的に探求します。加えて、学校、地域、農業、企業といったホンモノの現場の活動に実際に携わる中で、コミュニケーション力を養っていきます。

また「人間環境学科」は、これからの地球環境とその担い手である子どもたちがクロスロードする学びの場です。ワークショップ、フィールドワークというユニークな授業を通じて地球の明日を、人間の明日を見つめていきます。

平成21年3月、理事会において「中期マスタープラン」が策定されました。中期の展望に立った大学運営、教学の振興、キャンパスの整備等を一元的に議論し策定されたもので、本学の歴史の中で、こうした施策を公式に決定することは初めての試みです。建学の理念や教育ビジョンを振り返るに、さらに社会から期待される大学となるため、本学の新たな挑戦が始まっています。

平成23年4月より大正大学は4学部の学科9学科18コースとなります

文学部	法学部	経済学部	工学部	農学部	人間学部	環境学部	健康学部	芸術学部	国際学部
人文学科 日本語日本文学コース 哲学・宗教文化コース カルチュラルスタディーズコース 歴史学科 日本史コース 東洋史コース 文化財コース	表現文化学科 表現文化学コース 英語表現コミュニケーション国際キャリアを総合的に実現するクリエティブライティングコース 放送・映像表現コース	人間科学コース 人間科学コース 教育人間学コース 教育人間学コース ソーシャルワークコース 人間環境学科 のびのびもどろダクトコース 環境コミュニケーションコース 臨床心理学コース 臨床心理学コース	仏教学科 仏教2500年の「智慧」を社会に活かす人になる 仏教表現コース 宗学コース	美しい言葉と感性を学び創造につなげる 先の見えない視点から、根本的な問題を考える 楽しむ+ひらめく+知的な美意識 日本史で好奇心を刺激する。そこから未来が見えてくる 東洋の歴史を知ること新たな連携に形を築く 発見、感動と共に、歴史のリアルな素に触れる	英語・異文化コミュニケーション国際キャリアを総合的に実現する 書く・表現することを愉しむ自分を見つめる。※書道・英語・ラジオ・漫画も 21世紀に活躍するデジタルパーソンになろう！	地球のいのちのことも学び、未来の元気を創り出す 社会やコミュニティで活躍する「環境人材」を育てる	心の不思議を解き明かして、人の役に立つ仕事をする	仏教2500年の「智慧」を社会に活かす人になる 仏教表現コース 宗学コース	新しい時代の仏教をリードする人材育成



▲全体の鳥瞰図 現在、キャンパス全体を総合的に整備中。



▲平成22年3月に竣工した7号館（教育・研究棟）正面玄関から3階まで連なる大階段。吹き抜けの空間が心地よく感じられます。



▲7号館正面



▲第二期計画で予定されている建物 [左/新3号館(教育・研究棟)：地下1階/地上5階]平成24年春竣工予定。本格的なテレビスタジオも設置予定。
[右/新4号館(仮称：鴨台記念館)：地上3階]本学の「歴史と伝統を伝える」をテーマとした建物。校友会関連施設も設置予定。

さらに高い満足を提供するキャンパスへ

ハード面でも、中期マスタープランに基づくキャンパス整備計画が着々と進行しています。

創立以来育まれてきた本学のアイデンティティを大切にしつつ、時代にマッチした教育施設を竣工、合わせてランドスケープによる総合美化整備を行い、平成25年度にはキャンパス全体が一新される予定です。

学生のみならず、卒業生、地域にも開かれた新しいランドマークを目指します。

平成28年に迎える創立90周年、続く100周年と、大正大学の新世紀がより輝かしいものであるために、皆様のお力添えを宜しくお願いいたします。

同窓会の新しい組織

〔仮称〕鴨台倶楽部のご案内

「鴨台会」とは大正大学同窓会の呼称であり、平成20年度大正大学同窓会理事会に於いて、皆様に親しまれるよう校歌にも歌われている「鴨台」を同窓会の呼称として採用することが、決定しました。

〔仮称〕鴨台倶楽部（登録制の鴨台会）

従来の大正大学同窓会「鴨台会」では、都道府県支部を中心として活動をしてまいりましたが、今年度より10名以上の卒業生が集まった任意の団体（仮称「鴨台倶楽部」）を、同窓会「鴨台会」に登録できるようにになりました。都道府県支部の活動と併せて「同窓生同士、同窓生と母校、同窓生と在学生のつながりを築き、母校の発展に資すること」を目的とした（仮称「鴨台倶楽部」に皆様のご登録をお待ちしております）。

どんな団体が考えられるの？

職域系、クラブ・サークル系、学寮系、学部・学科・ゼミなどの団体が考えられます。

年次別系	学部別 学科別 専攻・コース別	等
クラブ・サークル系	文化・体育系	
職域系	業種別 金融系 教職系 福祉サービス系	等
学寮系	明照学舎 道心寮 光琳寮 紫雲寮	等
学内・学会系	史學會、社会福祉学会 組織化された団体	等
メンバーシップ系	みとら倶楽部	

横断的な同窓生の絆を深めると共に、母校の発展に資する登録制の団体であり、同窓会「鴨台会」の協力組織とする。

〔仮称〕鴨台倶楽部 発足

理事会での承認
(5月下旬～6月上旬開催)

同窓会本部 事務局へ提出

会則・役員決定

申し込み 用紙の入手

〔仮称〕鴨台倶楽部 設立方法

本部事務局に書類を提出。審査の上、同窓会「鴨台会」理事会に上程し、承認を受け正式発足。

ご提出は、郵送または同窓会本部事務局(1号館2階)までご持参ください。

会長・副会長・事務局長の署名捺印の上、書面を作成してください。会員名簿につきましては、データ(エクセル)でも提出できます。

大正大学ホームページ同窓会よりダウンロードもしくは本部事務局より郵送いたします。

大正大学ホームページ同窓会 (http://www.tais.ac.jp/related/ex_org/alumni/odai_club/odai_club.html) よりダウンロードしてください。もしくは、本部事務局より郵送いたします。

〔仮称〕鴨台倶楽部（登録制の鴨台会） 設立に関する Q&A

Q1 〔仮称〕鴨台倶楽部設立に関する最低条件は？

- A1
- 正会員(卒業生)が10名以上の団体
 - 会則・役員が決定していること
 - 会員名簿の作成
 - 活動状況報告書作成※
- ※既に活動されている団体のみご提出ください。

また〔仮称〕鴨台倶楽部発足後、継続のためには、設立年より3年ごとに名簿の更新をお願いいたします。

Q2 提出した会員名簿は、どのように取り扱われるのですか？

A2 会員名簿の取り扱いは「学校法人大正大学個人情報保護方針」に基づき、同窓会本部事務局にて厳重に保管いたします。詳しくは、大正大学ホームページ「個人情報取り扱い」をご覧ください。

Q3 会則は作らなければなりませんか？

A3 会則につきましては、〔仮称〕鴨台倶楽部の設立の必須条件です。会則の作成時には、ひな形をご用意してありますので、同窓会本部事務局までお問い合わせください。

同窓生からのメッセージ



多賀 学昭さん
昭和50年仏教学科卒・同窓会南九州支部副支部長

平成22年、口蹄疫の影響で大きな打撃を受けた宮崎県児湯郡川南町。ここで地域の教育や文化振興に尽力する同窓生がいます。人口約1万6千人、自然豊かなこの町にクラシックの響きを、「川南町トロントンドームモーツァルト祭」実行委員長を務める多賀学昭さんの活躍の様子をご紹介します。

「川南町トロントンドームモーツァルト祭」についてご紹介ください。

10年ほど前、一人の女子高生と音楽家との出会いからこのコンサートが始まりました。彼女は川南町出身で、当時、東京の国立音楽大学附属高等学校で学んでいました。

その指導講師で指揮者の馬込勇氏（現在、平成音楽大学教授）が川南町を訪れた折、町の文化ホール（2000年完成）の音響の良さに惚れ込み、氏の主宰する日本モーツァルト青少年管弦楽団の合宿と発表会をぜひここでやりたいと熱望されたのがきっかけで、毎年12月に開催されるようになりました。氏はリンツの州立ブルックナー管弦楽団に20年間在籍していたこともあり、オーストリアの作曲家兼音楽教育家バルドウィン・スルツァー氏（修道士）や氏の教え子であるウィーンフィル奏者等、オーストリア在住の指揮者や演奏家を招いて、モーツァルトの楽曲を中心に演奏しています。メイン



トロントンドームのエントランス



第9回モーツァルト祭の風景

のコンサートでは地元の合唱団との共演で、モーツァルトの宗教曲（ミサ曲、レクイエム）を演奏するなど、まさに「モーツァルトが似合う町」に相応しい催しになっています。地元では当初、農村でクラシックの音楽祭を開催して、集客が見込めるのか危惧する声も聞こえましたが、今では、川南町の歳末の行事としてすっかり定着した感があります。今年には口蹄疫の被害で存続が危ぶまれましたが、住民や行政当局から「モーツァルト祭は川南町の誇りだから何とかして続けさせねば」と緊急に補助金を増額して頂くことになりました。実行委員長として、ただ感謝あるのみです。

経営されている

「川南幼稚園」についてご紹介ください。

1964(S.39)年10月10日(東京オリンピック)の開会式の日を開園。定員120名。宗教的情操を中心にして、自立、自由の精神にあふれた幼児の人格形成を目標にしています。「体をつくる 楽しく遊ぶ 心をみがく」が園のモットーです。毎週月曜日に行われる本堂礼拝を子ども達はとても楽しみにしています。礼拝ではお念仏を唱えて、園長先生の昔話や紙芝居を見たりしますが、献灯、献香、献花の当番(年長児のみ)が、4歳以下の子どもの達です。その他、



幼稚園のホームページ

健康と活躍を心からお祈り申し上げます。

大正大学での思い出は。

学生数はあまり多くなかったのですが、先生方や学生どうしとの交流が密で、家庭的な雰囲気があったとても良かったと思います。先輩や友人達とアパートの裸電球の下で夜を徹して議論したり音楽を聴いたりしたことは懐かしい思い出です。旧制高校的な雰囲気はまだ残っていたような気がします。友人に啓発されてたくさん読んだことが現在の自分の心の財産になっています。

現役学生へのメッセージ、今後の大正大学に期待することはなんでしょう。

年齢を加えるにつれ、仏教が普遍的かつ世界に通用する法であることを確信するようになりました。現役の学生諸君にはぜひ仏教徒としてのバックボーンをもって各界で活躍する人物になっていただきたいと願っています。大正大学がオックスフォードやケンブリッジのように宗教的バックボーンを持って、世界に通用するような人材を育ててほしいというのが私の夢でもあります。

宮崎県から全国の同窓生に向けてメッセージをお願いいたします。

南九州の片隅で、多くの友だちと充実した生活を送っています。同窓生諸兄諸姉のご健康とご活躍を心からお祈り申し上げます。

新しいキャンパス 変わらない絆

2010年6月
体育棟竣工

大正大学中期マスタープランに基づき、キャンパス整備計画が着々と進行している。今回の特集では、2010年6月に完成した「体育棟」取材し、各部の近況、活動の様子を聞いてみた。そこでは、OB・OG達に見守られながら、今まで以上に熱い練習が繰り広げられていた。いっそう充実する施設と変わらぬ絆。大正大学にふさわしい進化の形を見るような気がした。

カバディ部 (部員数/男子16名、女子10名)



OB・OG
全日本チーム
キャプテン
井藤 光圭
(仏教学科 1999年卒)

勝つことにひたむきな姿勢が誇らしい

現役生が勝つために懸命に練習している姿を見ると、とても誇らしく思います。大正は勝ち続けることが使命です。一昨年、創部20周年を迎えましたが、年々レベルアップしている現役生の様子をぜひ見に来て欲しいと思います。



現役学生
主任
大滝 広倫
(仏教学科 3年)

先輩方が永遠のライバルです
平成22年の主な戦績は、西日本大会優勝、東日本大会準優勝など(ともに男子)。大正大学を中心にカバディというスポーツを盛り上げていけるよう日々努力しています。獅子奮迅の意気込み、団結のよさ。先輩方が築いてこられた伝統は、今も変わりません。9月には、全日本のOBチームに胸を借ります。目標はもちろん打倒全日本です。

卓球部 (部員数/男子25名、女子18名)



OB・OG
女子卓球部監督
池田 由美子
(社会事業学科 1981年卒)

新施設を期に、さらに熱い卓球部に
新しい練習場は、集中しやすい中間色が基調。まさに今の部員達のイメージです。人との出会いや経験を通して、部も、そして部員ひとり一人の心もオリジナルのカラーに染めていって欲しいと思います。燃える卓球部を目指します。



現役学生
加藤 亜理沙
(教育人間学科 3年)
笠原 多加恵
(仏教学科 2年)

皆様の応援が励みになります
練習は1日5時間。室内での練習や、護国寺までランニングなど、日々のメニューに取り組んでいます。体育棟ができて、今まで以上に練習に打ち込むことができるようになりました。伝統ある部。OB・OGの皆様の応援がとも励みです。残念ながら現在は2部リーグにとどまっていますが、秋には1部リーグに返り咲けるよう頑張ります。

剣道部 (部員数/男子27名、女子12名)

環境で自分を磨け

OB・OG
鴨台剣友会 幹事長
室橋 一登志
(文学科社会福祉学コース
1989年卒)

素晴らしい道場です。私達の頃は教室に手を加えて練習場にしていました。着々と強くなっているのは喜ばしいことですが、礼儀やけじめといった基本は忘れないで欲しい。自主性を重んじ、自分に負けない人間になってください。



創部50周年を迎え
気合十分
平成21年は関東大会でベスト8。また今年には3年生が全日本個人戦に参戦しました。現在、「剣道の聖地」日本武道館で行われる関東大会に向けて練習しています。毎年OB会で、たくさん先輩方にお会いできるのがとても楽しみです。今年には剣道部設立50周年の年。今まで以上に気合を入れて頑張っていきたいと思っています。

現役学生
主将
渡辺 翔太
(歴史文化学科 4年)



大正大学公開講演会

同窓会ニュース

支部便り

大正大学公開講演会&中国・四国地区支部 合同総会 in岡山



この公開講演会は、広く一般に向けて「大正大学」の知名度向上を図り、新入生の増加、よき校風学風の敷育を祈念しての事業で、平成22年5月24日月曜日の午後JR岡山駅のホテルグランヴィアを会場に開催いたしました。講師には岡山県出身のオリンピックメダリスト有森裕子さんを迎え、「よろこびを力に・・・」と題しての講演会を同窓会会員はじめ約270人の一般参加者を得て盛大に実施することができました。

講演に先立って多田孝文学長による「大正大学の教育ビジョンについて」の講話、渡辺道夫校友会部長の「大学案内」もあつて所期の目的は十分に達成できたものと安堵しております。

主催は同窓会本部のほか中国・四国地区の同窓会8支部並びに岡山県体育協会の3者で、それぞれの絶大な協力・連携のもと、経費も負担し合い、特に参加人員の確保については各支部はじめ全員がもてる力を駆使し計画どおり実施できましたことを感謝

しております。

ありがとうございます。

講演会のと「中国地区・四国地区支部合同同窓会」を同所にて開催しました。この地区には高知県支部、愛媛県支部、東四国支部、広島県支部、山口県支部、島根県支部、鳥取県支部と岡山県支部の計8支部があり、毎年持ち回りで開催されており、公開講演会に引き続きの開催で、少々お疲れでしたが多田学長はじめ本部スタッフや各支部会員33名が講演会の円成を称え、ねぎらい合いつつ旧交を温め、創立90周年記念事業にも思いを馳せながら懇談いたしました。

校歌あとのエール交換も元気がいっぱい、90歳を超える山口県の熊野先輩をはじめ皆々意気盛んでありました。

♪ 溢る、かの雲 漲るこの熱
華 咲け 鴨 臺
来たれよ 新生 ♪

空手道部 (部員数 男子20名、女子17名)



OB・OG

新井 彩可
(表現文化学科
2008年卒)

全国の関係者の皆様に喜んでいただける試合を

11月の全国大学空手道選手権では、ぜひ今年こそ優勝旗を奪還したいと思っています。同窓生、保護者の皆様はもちろん、本学を応援してください。一人の力の勝利ではないことを学生に伝えていきたいです。



現役学生

男子主将
飯村 吏毅哉
(仏教学科4年)

**士魂高揚をモットーに
挑戦し続けたい**

最近では東日本空手道選手権団体3位(男子・女子)、全日本学生空手道選手権個人3位(女子)、全国空手道選手権団体優勝(女子)、個人優勝(女子)等の結果を残すことができました。もちろん目標は各大会の優勝です。士魂高揚の部訓をしっかりと受け継ぎ、熱い気持ちで全員が団結し、試合や練習に取り組みたいと思います。



柔道部 (部員数/10名)



OB・OG

大正大学柔道部
誠和会副会長
日野 崇雄
(仏教学科1999年卒)

**諸先輩、若手OB、
学生の掛け橋に**

3部合同で練習に励んだ旧道場の懐かしさはあるものの、新施設の充実振りは羨ましい限りです。私自身、父の代から柔道部と縁があり、非常に愛着を感じます。諸先輩と手を携え、さらなる部の発展に尽くしていきたいと思っています。



現役学生

キャプテン
小野 剛史
(表現文化学科3年)

都内随一の練習環境で好成績を

新道場は国際試合用の畳も備えた都内随一の練習環境。とても使いやすく、練習のバリエーションも増えました。今の目標は、一部リーグを目指し、一つでも多く勝ちを重ねていくこと。「自他共栄」の部の精神そのままに、多くの先輩方が、稽古を付けて訪れてくださいます。皆様の期待に応えられるよう、チームワーク、団結力を大切に精進していきます。



同窓会ニュース

支部便り

北海道第一支部総会

平成21年11月15日(日)、平成21年度大正大学北海道第一支部同窓会総会(第30回)を函館駅前、函館山を一望できるラビスタ・函館ベイに於いて開催いたしました。当日は母校より人間学部長・平井有慶先生、同窓会本部・竹林守司次長をお迎えし、会員の参加者10名とともに、有意義なひとときを過ごしました。

支部総会では事業報告・決算・来年度の予算・事業報告などが審議承認され、山口支部長より、母校を卒業した会員数が107名いることから、今まで以上に支部活動を活発にし、多数参加するようにしたいとの言葉を頂きました。

一連の総会議事終了後、竹林守司次長より、大学創立90周年記念であるキャンパス総合整備事業の概要・母校の現状報告がありました。

引き続き、平井先生には「いまどきの聖徳太子」(現代の学生気質)と題した講演をして頂き、詳細な講演資料を基に、全員終始熱心に受講いたしました。

講演終了後、懇親会は宗派・学部・先輩の区別なく和やかに楽しい宴となり、より一層の親睦を深めました。

京都府支部総会

京都南座に顔見世興行のまねきが上がリ、師走の風景ただよう12月3日。京都市内のホテルフジタ京都・比叡の間を会場に、大正大学同窓会京都支部の平成21年度

た彼岸の入りのお忙しい中、多田孝文次期学長(現学長)、同窓会本部の大橋定敏氏の出席を賜りました。支部総会の前には「観光文化公演会・座談会」と題した公開講座を行い、地元高千穂町の方々にも呼び掛け、約50人の参加がありました。

野中玄雄支部長の挨拶後、まずは多田先生に「神々の里から彼岸の心を」の演題にて講演頂きました。日本はずっと採取、自然の恵みを探り生活していた。島国で国境もないので他国との戦もなく、自然と共に生きる穏やかな民族だった。そこに大陸から宗教が入って来た時も、争う事なく、もとある自然を敬う心と宗教が融合し日本独自のものができた。その1つがお彼岸である。等々、場所と時期に相応しい内容でした。

次の座談会では、野中支部長が進行役となり多田先生、高千穂町観光協会会長・佐藤哲章氏、川南町モーツァルト祭実行委員長・多賀学昭氏(昭和50年卒)の同窓生、そして竹葉一竹灯籠祭実行委員長をはじめ様々な要職を務めている製菓会社社長の板井良助氏をゲストに招き、それぞれの地域の町おこし策や課題を紹介していただきました。本来、この座談会の進行役は、地元宮崎のMRT宮崎放送局のアナウンス部長である上岡信夫氏(昭和50年卒)が行う予定でしたが、急な仕事の為残念ながら欠席となりました。

懇親会では、欠席された上岡信夫氏より届いた焼酎を飲みながら、地元高千穂の民謡「かりほし切り唄」の名人に唄を披露していただき、その後場所を高千穂神社に移動し、高千穂が日本に誇る「夜神楽」を佐藤哲章観光協会会長のお世話で見学し、さらに再度場所を移し夜更けまで懇親を深めさせて頂きました。半日という短い時間でしたが、大正大学、同大同窓会本部による、物心両面にわたる心遣いにより大変有意義な時を過ごさせて頂きました。

また、懇親会前に行われた総会において、次年度の支部総会を沖繩・那覇で開催する事が決まり、皆の沖繩での再会を約束し本年度支部総会を終えました。

山梨県支部総会

平成22年3月28日(日)、大正大学同窓会「鴨台会」山梨県支部の平成21年度総会を石和温泉旅館「喜仙」にて開催いたしました。まず総会に先立ち理事会を開催し、続



総会が開催されました。会員18名の出席を迎え、定刻の午後5時30分に開会。総会は大橋隆成支部長の開会のあいさつで始まり、支部事務局より「平成20年度決算報告に関する件」「会費徴収に関する件」の2議案が報告され、全員の承認を頂きました。

続く大学の近況については、新年度からの学部編成についての説明、そして創立90周年記念事業についての説明を頂き、母校の充実と進歩を感じることができました。本年の講演には、現在の京都支部の事務



いて総会が開かれ、平成21年度事業報告・平成21年度決算報告・監査報告について審議がなされ承認されました。また、本年度は役員改選の年に当たっておりますので、総会にて新役員が選出されました。今回は諸般の事情を考慮して前役員の再任と、前理事から新たに顧問を2名選出し、また新理事を3名選出して会長以下役員20名体制で3年間の任期を務めることになりました。次に平成22年度事業計画について説明があり承認されました。また、陶山同窓会

担当が真言宗智山派であるご縁で、ご多忙の中、小峰彌彦学長にご出講頂き、「日本人の精神文化と仏教」と題して、我が国の宗教心と歴史、文化のかかわり、特に仏教の影響についてお話し頂きました。

時間的な制約もあり、十分にお話頂けたかと危惧しておりますが、興味深い講演を頂けたと思っております。

講演終了後、会場を移動し、懇親会となりました。

まず支部顧問の佐藤謙学氏の乾杯の発声により開宴。学長にも同席して頂き、途中、参加者一人一人にマイクを回し、思い出などをお話し頂きながら、笑顔の絶えない和やかな雰囲気の中、楽しい時間を過ごすことができました。

懇親会の最後は恒例の校歌斉唱。怪しい部分もありましたが、学生時代に戻ったかのような歌声でした。

参加者の固定化や減少という課題もありますが、世代を超えた同窓生が、和やかな時を共有することの大切さを感じる支部総会でありました。

南九州支部総会

平成22年3月18日、平成21年度南九州支部(宮崎・鹿児島・沖縄)総会が開催されました。開催地は、東国原知事人気と宣伝により、スピリチュアル・スポーツとしても人気の「神話のふるさと」高千穂(会場:ホテル高千穂。今回の実施にあたっては、大正大学(昭和45年卒)同窓で高千穂町観光協会会長・佐藤哲章氏に大変お世話になりました。大学からは年度末で、ま



事務長より大学の現況についてご報告を頂き、平成22年度は4学部体制と成ることの説明や、新校舎の建設・大学創立90周年についての報告を頂きました。

総会終了後、人間学部人間科学科教授弓山達也先生により「現代とスピリチュアリティー」現代人の「こころ」事情」と題してご講演を頂きました。スピチュアリティーとはなにか、分かり易くまた具体的に例示して頂き、理解が進んだのではないかと思います。

講演終了後、会場を移して弓山先生、陶山事務長にもご出席頂き、磯貝大徹新顧問の乾杯の発声で懇親会を開催しました。弓山先生・陶山事務長には参加者とひざを交えて色々とお話を頂き、大変和やかに、そして有意義な時間を過ごして旧交を大いに深めました。最後は参加者全員で大学の校歌を歌ってお開きとなりました。

福井県支部総会

平成22年5月10日、平成22年度大正大学同窓会「鴨台会」福井県支部総会をホテルフジタ福井に於いて開催した。大学からは校友会室・渡辺道夫部長、人間学部教授・落合崇志（たかゆき）先生のご出席を頂いた。

当日は8名の会員を迎え、第一部は、支部での事業活動・決算報告・次期支部長・副支部長の選出、引き続き同窓会本部・校友会室の渡辺部長から大学の近況報告があり、その中でも特に平成28年に大学創立90周年を迎えるにあたり、記念事業・キャンパス総合整備が推進中である事の説明があった。

栃木支部会員の皆様には今後とも益々のご理解ご協力をお願いいたします。

千葉県支部総会

平成22年6月5日（土）大正大学同窓会「鴨台会」千葉県支部総会が開催されました。

当日は、約60名の同窓生が肩を並べ心地



現代の若者のニーズにマッチさせ、この3月既に竣工した新7号館（8階建）教育・研究棟内部の詳細、並びに現在建設中の新6号館・クラブ練習棟、新3号館の教育・研究棟の概要、キャンパス全体のランドスケープの整備事業等で、総額90億円の事業を大学として現在進捗中である事の説明が縷々あり、この事業に同窓会「鴨台会」に対する勧募活動の推進を強く強調された。

総会終了後、第二部、講演会を開催し、落合先生に新設「環境コミュニティ専攻の挑戦」として講演を頂いた。現代社会での環境コミュニティとは、自然、福祉、経済の社会バランスの中で、各

よい仲間との触れ合いの一時を楽しむ事が出来ました。総会の冒頭、大学より榊副学長のご臨席を賜り今後の大正大学の在り方を含めご挨拶を頂戴しました。議事では、通常議案のほか特に大正大学創立90周年記念事業について大学校友会事務局より説明が有り卒業後なかなか見ることのできない学舎の変貌する様子に想いを馳せ始終聞き入っておいりました。

総会終了後、元自治医科大学小児科医であり真言宗智山派薬王寺のご住職（栃木県）でもあります倉松俊弘先生をお招きし「現代における死の定義」という演題でご講演頂きました。現代社会の一つの問題とされている「脳死問題」「臓器移植問題」を現代医学（医療）の立場考え方、宗教者としての立場考え方、あるいは政治行政上の考え方と方向性にまで範囲を広げご解説頂きました。今回の参加された方々の中には、宗門人だけでなく宗門外の卒業生も居り一同熱心に研修していました。

岩手県支部総会

平成22年6月23日、鴨台会岩手県支部総会が盛岡市内「ホテルニューカーリーナ」において開催された。岩手県支部では、毎年の総会に併せて理事会・総会・記念講演会を実施しており、今回は県内から会員24名の参加を得た。

総会は、事業・決算の報告と本年度の事業案・予算案の審議が行われ、事務局原案の通り承認された。また、「鴨台会」呼称追加と、大正大学同窓会規約条項変更に伴

個人がいかにして社会貢献が出来るかが問われており、その課題に対して前進していく大正大学の役割は、仏教を包括させ、それに基づいた独自の教育を進めて行かなければならないとお話しをされた。生涯において得難い勉強をさせて頂いた。講演後は会場を宴席に移し、落合先生・渡辺部長を囲みながら和やかな雰囲気の中で交流が出来、後半には支部「鴨台会」同窓会旗のもと校歌斉唱をして次年度の再会を期した。

栃木県支部総会

平成22年6月4日（金）、「鴨台会」栃木県支部の本年度総会を宇都宮市「ホテル丸治」にて開催いたしました。

総会は23名出席のもと、伴乃昶支部長の挨拶に続き、帆足宜隆校友会室課長よりご祝辞を頂き、議事に移りました。議事では、予算決算などが審議され、活発な質疑のもと、全議案承認されました。なお、平成23年3月には公開講演会を開催することが決定されました。

議事終了後、帆足宜隆校友会室課長より同窓会本部報告をいただきました。本部報告では、創立90周年記念事業につきまして、キャンパス整備の現況・予定、勧募活動の体制などの説明、さらには大学の現況についての報告がありました。ここでも、会員から活発に質問などがありました。

その後、清水有聖先生より「平家物語」と仏教」と題してご講演をいただきました。講演会では、平家物語の序章に込めら



う会員資格の変更等を主眼とした支部規約の一部改訂を議決した。同時に任期満了に伴う役員改選を行い菅野支部長が再選され、後記の役員が選出された。大学から出向された事務局校友会室部長渡辺道夫氏より理事報告と大学創立90周年記念事業勧募についての説明を受け、支部として出来る限りの協力をしていくことを確認した。

その後、開催された記念講演は、岩手県支部菅野成寛支部長と20年来の親交のある大正大学文学部歴史学科教授加島勝先生より「飛鳥・奈良・平安時代の仏教美術」と題して90分に亘りご講演を頂いた。東京国立博物館で主任学芸員や教育課長を歴任



れている意味のお話しを頂きました。序章は、物語に入り込ませるためにもとても大切な所もあり、また、物語全体の世界を表しているものでもあるとのこと、平家物語が平家の滅亡史と言う事が読み取れるとのことでした。とても興味深いお話でした。

懇親会では、公開講演会の話などで盛り上がり、和やかなひと時を過ごしました。なお、平成23年3月に予定される公開講演会につきましては、詳細が決定しましたら会員皆様へご連絡させていただきます。ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

され、仏教工芸史がご専門の加島先生による、奈良法隆寺献納宝物の金工品を中心とした、大変興味深く、しかもパワーポイントを用いてのわかり易いお話に、参加者一同、当時の金工芸術のすばらしさを共有することができた。その後は、懇親会に移り加島先生・渡辺部長を囲み学当時の思い出話などで楽しく歓談した。

岩手県支部役員（任期3年間）

- | | |
|----------------|--------------|
| 支部長 菅野成寛（天） | 副支部長 佐藤有弘（豊） |
| 理事 矢澤亮康（天） | 吉水俊教（浄） |
| 菅野宏紹（天・事務局長併任） | 吉水義教（浄） |
| 佐々木秀厚（天） | 立花裕子（般） |
| 小林信雄（智） | |
| 加藤 光（浄） | 久米真善（豊） |
| 内田光寿（時） | 武田真和（浄） |
| 顧問 谷地玄雅（浄） | 昆野大樹（浄） |
| 庶務 佐々木五大（天） | 菅田正義（般） |
| 齊藤雅恵（智） | |
| 会計 本間真悠（智） | |
| 監事 千葉秀覚（天） | 吉水義教（浄） |

宮城県支部総会

当支部は昨年役員の変更がありました。会の再出発にご苦労いただいた正田運泉支部長がご勇退され、樋口隆信師が新しく支部長にられました。

本年の総会は平成22年6月26日（土）午後3時から、仙台市の東京エレクトロンホール宮城で行われました。大学からは多田考文学長様と校友会室主任、河村隆哲様にお出でいただきました。開会のあいさつでは、支部長から参加者の



少ないことが話されました。会費納入者が80名ほどなのに参加者が24名でした。その対策をどうしていくかと課題を提示しました。

続いて協議に入り、事業報告(主として昨年度の総会とための拓院会の内容)と会計報告(決算額736,305円)があり承認されました。

次に本年度の事業計画と予算が異議なく承認されました。

3時30分から多田孝文学長の記念講演に入り、演題は「現代社会における仏教の役割」としてお話を伺いました。



窓会事務局(主管)をお招きし本年度の大分県支部同窓会が行われました。

総会では、寺田豪明支部長のあいさつ並びに本部理事会での審議内容等が報告されました。我々が過ごした大正大学の姿(校内風景・学部等)の違いにただただ驚くばかりでした。また、役員改選の案件が審議され次年度からは小笠原義生氏が支部長となることが決定しました。総会終了後、研修会として学長である多田孝文先生による「知恵と慈悲の実践」と題した講演をいただきました。1時間半があつという間に過ぎたと思えるくらい熱く語られる先生のお考えを参加者一同熱心に聴講させていただきました。

いる3号館も耐震調査の結果、新しくなることでした。しかし、狭いながらも家庭的な雰囲気を残しながら、現代にあった環境を作りあげようと思っており、同窓生のご理解とご援助をいただきたいとのことでした。

次に元氣な大学を一層おし進めるために、学生の目線で伝えること、言い換えれば教育と学生との距離を縮め、さらには教員は出来るだけ学内にとどまり、学生との関わりを深めることがいま大学に求められることであるとのことでした。

しかし、それは学生に迎合することではなく、講義中の私語などを厳につしませるなどの基本的な生活習慣をしつかりと身につけさせることを大切にすることである。

このことは、仏教育にとっても同じことであり、特に大乘仏教は、一般の人達の中に積極的に入り、仏教育の考えや行動を示すことが求められることであると熱い言葉で話されました。

福岡県支部総会

ここ数年、ホテル日航福岡での開催が続いておりましたが今年は心機一転、支部長の発案もあり、会社名も変わったことから今回は場所を海辺に移し、博多湾を見下ろす会場にて総会を開くことになりました。

梅雨空で雨の多い季節の中、幸いにも天候にも恵まれ平成22年6月30日、福岡シ

きました。懇親会では、手嶋秀憲氏の乾杯のご発声に始まり、一人ひとりの学生時代の思いを語り合いながら1年ぶりの再会を喜び合い懇親を深めることが出来ました。最後に秋吉文隆氏の万歳三唱の後、来年の再会を願うとともに日々の実践に邁進していくことを誓い合いながら全員で大正大学校歌を歌い会を閉じることができました。

北海道第二支部総会

大正大学同窓会北海道第二支部同窓会を平成22年10月12日午後四時からホテルライフォート札幌で開催いたしました。

当日は大学より、仏教学部長・勝崎裕彦先生、校友会室・帆足宣隆課長におこしいただき、支部会員14名が参加いたしました。はじめに、井畑支部長より大正大学同窓会の現状及び経過報告が行われ、続いて勝崎先生より「仏教文化の広がり」と題し講演をいただきました。

講演では、I「仏教文化の広がり」II「生活の中の仏教文化」III「仏教文化の意義」IV「仏教文化の可能性を問う」の項目で非常に分かりやすくお話をいただきました。

特にIV「仏教文化の可能性を問う」に付いては、創立90周年を迎える大正大学が、今日の少子高齢化社会の中で今後どのような方向性を指すのかを詳しく説明いただきました。

また、帆足課長からは、創立90周年事業に付いて説明があり、北海道第二支部役員に対し「大正大学創立90周年記念事業北海道第二支部勸募推進協力委員」委嘱状の伝達が行われました。

ホークホテル32階アンヘルを会場に、浄土宗大本山善導寺御法主、阿川台下御来賓の元、本部より2名、会員13名の小規模でございましたが和氣藹藹の中、新年度懇親会を開催いたしました。

まずは支部中挨拶から始まり会計、監査報告の後、本部出席者大橋主管より現況報告をお願いし、終わって校友会室帆足課長から、大学創立90周年記念事業に関する内容と協力要請についての話を頂きました。

本学も設立以来、地道に発展してきた学校では有りますが、時代が変わり現代は少子化の時代、定員不足にて危機的状況である中、生き残りを計らんがために時代に



懇親会では、様々な話題が出されましたが、そのひとつに、同窓会支部活動が浄土宗所属会員中心であり、他宗派、宗派外会員を今後どのようにして参加を促すか問題提起されました。

他宗派、宗派外会員に役員に入っているなど今後打開策を検討することとなりました。短い時間でしたが、勝崎先生、帆足課長を交え有意義なひと時を過ごすことができました。

終わりにになりましたが、当会開催にあたり、ご支援賜りました大正大学並びに同窓会本部に対し衷心よりお礼申し上げます。



沿った案を計画中であり、その中で90年という節目を迎えようとしています。

このプランを実行するに当たり、当然ながら巨額の資金が必要上、何とか協力できないものかと懇願を力説されたところでございます。我われ出席者全員も感慨深げに、母校のためならばという思いで、真剣な顔つきにて話に聞き入ったと思います。

次に記念の卓話としまして、今年には県内でも事例が上がっている身近な話を、会員である浄土宗福岡教区樋口英信教区長よりして頂くことになりました。講題は「反社会的勢力による宗教法人介入の実態と手口について」この話を拝聴しながら全員が何となく背筋の寒くなる思いがしたのでしようか、それぞれお互いに顔を見合せ、改めてスキのない寺院経営を、あるいは経営の厳肅さをと、各自が深く感じとったような気がしたところです。

その卓話も終わりに近づくころには玄海沖にゆっくりと夕陽が沈み、並行して福岡市内の明かりもちらはら。さあ今からが本番で有ります。待望の親睦会、楽しく和やかに賑わう中、昨年度亡くなられた会員、松尾抱憲氏への黙禱をささげつつ、宴もたけなわ、校歌斉唱にて終了致しました。

終了後は最終目的地、ご存知中洲歓楽街へ、いそいそと有ります。

大正大学同窓会 大分県支部総会報告

平成22年7月26日、別府市「悠彩の宿望海」において、大学より3名(多田孝文学長・渡辺道夫校友会室部長・大橋定敏同

平成22年度 同窓会茨城県支部総会報告

平成22年度大正大学同窓会茨城県支部総会が、平成22年10月25日、大正大学副学長・柳義孝先生を講師にお迎えし、大正大学同窓会主管・池田晃隆先生、大正大学創立90周年記念事業勸募局主任・河村隆哲先生のご出席を頂き、茨城県総合福祉会館において開催されました。

茨城県支部からは総勢34名という多数の会員の出席をもって、理事会において平成21年度事業並びに決算の承認、平成22年度事業並びに予算承認が可決され、その後の総会においても報告承認が可決され、その後の総会においても報告承認が円滑に進みました。また、総会中には清水敏孝支部長から勸募に対しての茨城県支部の姿勢の説明がされ満場の理解を得た後、大正大学創立90周年に向けての勸募についての話が河村隆哲先生よりなされ、意見交換や議論が交じられました。

そこでは、各宗派間の事情による相互理解、また母校を愛するが故の厳しい話も出る中、同窓会茨城県支部も一致して前向きに協力をしていく方向性を結論として総会を終了しました。

総会後、研修会を開催。講師は大正大学副学長・柳義孝先生より「本当にお葬式はいらないのか」という講題のもと、研修講演がありました。

お葬式のもつ本来の意義、亡くなった方と遺族の心の交流、お葬式はいらないという間違った認識、現代社会のもつ多様化している認識考え方という一面、また我々僧

南九州支部総会並びに 公開講演会

平成22年度の南九州支部（宮崎・鹿児島・沖縄）総会並びに公開講演会を10月26日に、平成13年以来9年のぶりに沖縄県那覇市に於いて開催。前回の沖縄開催では那覇市袋中寺の故・遠藤修雄住職にお世話をいただき公開講演を実施し、大正大学を沖縄の地にアピール。今回は講演当日の午前中に、南九州支部会員、多田孝文学長、そして沖縄県内の浄土宗寺院の協力をいただき、袋中寺にて遠藤修雄氏の供養、また今夏宮崎県にて発生



侶が現実にあるこの問題に対して、行動でどう示し、心ではどのようにケアしていけば良いのかなど、問題提起も含めて改めて考えて行くべき方向性を示していただきました。総会研修終了後、場所を水戸プラザホテル内、四川飯店に移し、懇親会を催しました。懇親会においても多数の出席者をお迎え、膝を交えての笑いとは様々な話題、美味に舌鼓をうつ盛会の中、総会全日程を終了しました。

ます。例として語られたのは甲子園を指すあの夏の高校野球の選手の姿、汗みどろになって取りくむ姿。強いチーム、弱いチームはあるが選手一人一人が練習に取りくむ熱き姿に師の高校生を見つめる目は全てのものに平等に光をあてようとする師の世界観がにじむあるお話しでした。先生は人生観そのものであると感じました。夏にはい文の名前、一生付き合っていく自分の名前を大切にしたい。楷書で自分の名前を書く練習をしつづけることから字を書くことを始めては…とお勧めになりました。「大切」なことは「練習」。それを続けるこ



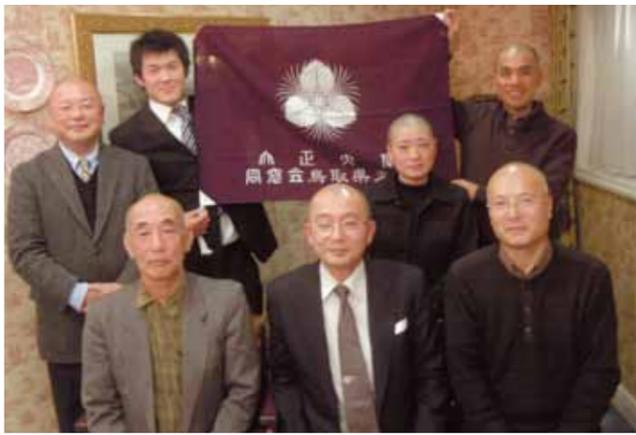
した口蹄疫による被害の家畜類の供養の法要を行いました。法要後、講演会の会場である那覇ハービービューホテルに移動。講師には、昨年度の高千穂での公開講演に引き続き、多田孝文学長。「仏教的な生活と経営」生きづらいつ世の中を、どう生きる」と題し講演をして頂きました。今回は通常の支部同窓会全会員へのハガキ連絡に加え、現在大正大学在学中の沖縄出身の学生の保護者の方にも大学の協力のもと連絡をさせて頂きました。またそれ以外にも共催という形で、地元・沖縄銀行の顧客研修団体の「おきぎんカトレア会」の皆様との協力、そして多数の参加を頂き、合計130人余の参加者の中、まず

沖縄銀行常務より多田孝文学長の紹介があり講演が開始。皆が熱心に聴いている中、古来より日本人は自然を大切に、相手をいたわるといふ事を大切にしてきた。日本の料理人は食べる相手の事、口の大きさなどを考えて材料を切ったりし、食べる人が箸では切ったり刺したりすることなくただつかんで上げ下げすればいいように料理をしていたなど、分り易い例えを交えながら楽しく講演をしていただきました。

講演後は会場を那覇パシフィックホテルに移し総会を開催。3月の高千穂での支部総会の会計報告等があり、大学事務局よりは大正大学90周年の記念事業の説明が行われました。総会終了後はもちろん？懇親会です。ここでも「おきぎんカトレア会」、沖縄県内浄土宗寺院の方にも参加していただき乾杯。沖縄料理に舌鼓を打ちながら各自自己紹介。飲食が進む中、前回の沖縄での公開講演の講師でもあった、沖縄を代表する平和音楽家の海勢頭豊氏によるミニコンサートがあり、美味しく、楽しくあつ

すますの発展を心から願っているとの話がありました。鳥取県は今年前半、連続テレビ小説『ゲゲゲの女房』で人気を博しましたが、折しも『恋谷橋』の三徳山口ケ終了の日でもあり、エピソードなど聞くことができました。

さて、今回の議題はなんと言いましても大学創立90周年記念の勸募についてでありました。山本高三副支部長が6月の理事会と11月の中国四ブロック会議に出席し、その報告がありました。大正大学を久しぶりに訪問し感じたことは、昔に比べて格段に女子学生が多く、華やい中にもキャンパスは活気がみなぎり、建物も見張るものが建設されており、充実発展していることがよくわかったとのことでした。平成22年3月に打ち立てられた「中期マスタープラン」に基づいての募金目標金額10億円と、



という間に時間が過ぎお開きに。この盛り上がった気持ちはやはり抑える事が出来ず、皆で那覇の歓楽街へ。二日酔いながら見た翌日の地元紙・沖縄タイムスに公開講演の記事が掲載されていました。

ここ3、4年続けての公開講演付きの支部総会。参加の会員は少なく大変な事もありますが、毎回頭を捻り、様々な人や所で共催、協力をいただき、そして何よりも大学同窓会本部の強力な協力をいただき、毎年楽しく同窓会をさせて頂いております。今後、この楽しい同窓会を、一人でも多くの会員に味わってもらえるよう頭を捻って行こうと話し合った参加会員一同でした。

三重県支部総会

平成22年11月12日（金）、三重県支部総会と公開講演会を松阪フレックスホテルを会場として開催いたしました。昨年度の公開講演は学長小峰弥彦先生にご講演いただきました。今年度は「書への誘い：お話と実践」と題して、大正大学の卒業生であり日展に入選すること14回、日展会友である書家の菅生攝堂（本名幸三、昭和46年3月卒）師をお招きして公開講演会を行いました。約一時間程に及ぶお話しでは、師の人生観、世界観がほとばしるお話しでした。大正大学在学中、書道研究会に属され、書道への道を志向され、研さんを積まれる傍ら県内高校の芸術科の先生として勤務されました。いまでは日展会友、日展に入選する常連達、県内でいくつものアトリエを持たれ、多くのお弟子さんを育てられています。お話の内容をかいつまんで紹介いたし

あわせて第2期キャンパス整備計画の概要を伝えてくれました。鳥取県には真言宗の設立2派の卒業生はおらず、天台宗・浄土宗・高野山真言宗の卒業生があわせて16名です。でなかなか十分なことではできそうにありませんが、一般卒業生にもそれなりに周知にとめて何事も誠実に対応していこうと一話話し合ったような次第です。

懇親会途中に法務を終えた山口明茂君が合流。まず今年の千葉団体がカヌー競技3位に入賞した藤井功輔君の快挙に祝勝、さらに一か月前普山式を挙行した工藤純裕君に乾杯しました。和気あいあいのうちに忘年の交りを重ねて最後、鈴置瑞澄さんのリードで校歌斉唱「生くべし生くべし我等生くべし・・・」と酔声高らかに歌ってお開きとなりました。

平成22年度 京都府支部総会報告

平成22年度の総会は12月9日（木）17時30分より京都都センターホテルにて開催いたしました。

本年の総会案内発送107名に対して返信者45名、うち出席15名、欠席30名でした。またこの案内により判明した支部会員除籍が8名でした（他界1名、転居先不明4名、京都府外転居3名）。

本年は事務局新役員による同窓会開催となりましたが、当日は15三重のご出席をいただき、定刻を迎え田中良昌 新支部長の挨拶により開会いたしました。まず支部報告として以下の議案のご審議いただきました。

鳥取県支部総会報告

時ならぬ雷鳴とみぞれの落ちる中、平成22年12月9日（木）、鳥取県倉吉市駅前倉吉セントラルホテル3階会議室に於いて恒例の県支部同窓会を開催しました。

総会の最初にまず米田良中支部長の挨拶がありました。世界遺産登録に向けて日々忙しい生活をされている支部長の挨拶は、ご縁の大切さ有難さに触れられ、大学のま

とのより精神性が深まり無になれる。孫が生まれたらその名前をしっかりと紙面にいっばいに大きく書いてやろう。孫が成長してその字を眺めたとき、自分を励ましてくれる存在をなり得ると。私達の生きる気迫みたいなものを通して伝えることが出来るんだということを聴聞する私達に届けてくれたお話しでもありました。実演では畳6畳もある大きな紙に書いて掲示された。精魂をこめて書かれた作品に会場の人々からどよめきと拍手が起こった。当初会場の都合もあり200名の席を用意しました。当日の参加者は165名と多くの参加をいただき大へん盛況のうちに終わりました。ほっとしている所でありました。23年度には日比野優道先生率いるマンドリンアンサンブルをお招きし、去年度よりもさらに輪を広げて実施すべく計画立案を立てその実現にすでに歩み始めています。同窓会活動を通じていろんな分野からの発信を行い、大正大学のアピールを側面的に進めて行きたいと支部同窓生一同頑張りしたいと思います。更には「同窓生」という意識の向上と交流、厚誼を深めたいと考えています。



同窓会ニュース

同期会便り



第1回大正大学浄土宗 1993年入学同期会

平成22年1月23日(土)に、和氣昭祐先生、古屋道明先生をお迎えし、第1回平成5年度入学した浄土宗所屬生を対象に同期会を開催いたしました。

大学を離れてから初の同期会。集合場所は、東京・大本山増上寺(芝公園)。午後4時30分の集合時間にも関わらず、30分前にはほとんどの参加者(北は青森・南は福岡より総勢24名)が到着し、あっという間に学生時代に戻ったようでした。(驚くことに皆、若々しい??)

勤行に参加し、御導師より同期会各諸大徳先亡のご回向と各家先祖代々のご回向をしていただき御十念を頂戴いたしました。勤行終了後、場所を移し、浜松町駅近くの居酒屋にて大懇親会を開催。初めに和氣昭祐先生より「宗祖法然上人800年大遠忌」(平成23年)をお迎えするにあたり「君たち浄土宗青年僧侶が、愚者に立ち返り、今こそお念仏の原点に立ち戻らなければならぬ」とのお言葉をお聞きいただき、古屋道明先生からは「大恋愛の末、結婚します。」との心温まる報告もありました。懇親を深めるなかで、自分自身の仏教観や日頃の情報交換など大いに盛り上がり楽しい時間を過ごすことが出来ました。大正大学にて、いただいたご縁を大切にすべく、早速、来年は福岡を会場に第2回同期会を開催することが決定いたしました。今回残念ながら参加出来なかった方々には今後、是非ご参加いただきますよう宜しくお願い致します。最後になりますが、今回幹事を引き受けてくださった、原田宗隆君、荒木信道君には同期会一同感謝申し上げます。

道心寮20期生浄土学同期会

平成22年1月29日、道心寮20期生浄土学の研修並びに別時念仏会が、東京港区の法音寺にて開催されました。本会も今年の開催で第3回目を迎え、毎年の開催が恒例となってきた感があります。今回は初めての午前開催。港区のオフィス街を通り抜けて、身の引き締まる思いで研修会場の門を

1. 平成21年度決算報告に関する件
 2. 平成22年度会費徴収に関する件
 3. 支部名称変更について
 4. 支部規約変更について
 5. 志部顧問推薦について
 6. その他
- 特記事項として
1. については報告通り承認されました。
 2. については例年通り年会費3,000円となりました。
 3. 4. の名称変更とそれに関する規約変更については大正大学同窓会本部より名称統一の通達がありました。これまでは名称に入っていないが「鴨台会」京都支部(以下「支部」



という。)といい、事務所を。支部長宅のおく。第1条に関しては、総会の承認のもと事務所を事務局長宅におくことも可能とする。の一文が付加されて、事務局運営の円滑化を図ることになりました。

5. については高井隆成 前大正大学同窓会京都長が推薦されました。

6. その他は無しでした。総会議事に続いて、大正大学学長 多田孝文先生より大学の近況の報告として新年度からの学部編成についての説明、そして創立90周年記念事業についての説明を頂き、会員の皆様に記念事業勸募のお願いがありました。母校の発展を考える良い説明でした。

引き続き、多田孝文先生より「現代社会と仏教」というテーマで講演を拝聴しました。先生には、我が国の祖師のお言葉と現代社会の僧侶におけるこれからの心構えと、各宗派それぞれの子弟教育についても講演をいただきました。時間的な制約もありましたがユーモアも交えたお話で大変有意義な講演でした。

講演終了後、記念撮影。その後、会場を移して懇親会に入りました。高井隆成 支部顧問の乾杯の発声により開宴し、学長にも同席していただき、和やかな雰囲気の中、お酒を交わしつつ楽しいひと時を過ごすことができました。懇親会の最後は恒例の校歌斉唱。例年通り歌詞のあやしい部分もありましたが、学生時代に戻ったかのような歌声でした。以前より参加者の固定化や減少という課題もありますが、世代を超えた同級生が、和やかな時を共有すること

の大切さを感じる支部総会でした。支部事務局のバトンを天台宗で受け継ぎ新たな体制であったところから多くの不行き届きをお詫び申し上げます。また支部活動の充実には皆さまの厚情を賜りましたことを御礼申し上げますと共に、さらなる発展にお力添え賜りたくお願い申し上げます。

北海道第一支部総会

平成22年12月20日(月)、第31回大正大学同窓会北海道第一支部総会及び懇親会が函館の西部地区にある料亭富茂登で開催されました。



まず総会では平成21年度事業報告並びに収支決算報告、続いて22年度事業報告および予算案の審議が行われ原案通り承認されました。

総会に続いて大正大学事務局長の柏木正弘先生より大正大学キャンパス整備計画について講演を賜り、現在では教育研究棟や体育棟が完成し、多くの学生に学びの場が開かれ、クラブ・サークルにおいても国際大会でメダルを取るなど華々しい成績を残しているとの母校の現状報告があり、今後更なる教育の根幹の充実を図るためキャンパス内の整備の必要性についてなどを拝聴させていただきました。

講演終了後は、同会場にて懇親会が行われました。私自身、平成22年度に大正大学を卒業し、初めて同窓会への参加となりましたが、宗派や学部を問わず多くの先輩と交流を深めることができ、大変有意義な時を過ごすことができました。

最後にこの会に協力して頂いた大正大学、並びに同窓会本部等の関係者の皆様にご心より感謝し、御礼申し上げます。誠に有難うございました。



くぐりました。研修に先立ち別時念仏会を修し、普段は念仏行を怠げがちであることを反省しつつ、阿弥陀様の名号をしばらくの間お称え致しました。続いて行われた研修は、会場となったお寺のご住職であられる佐賀和章上人より、「衣を着けた仏様」との講題のもと講演を頂戴しました。日本の飛鳥時代に造立された仏像に、中国で成立したと考えられる様式が見られることに端を発し、この様式が実際に当時の中国において主流であったこと、また日本では大化の改新によって国内の情勢が変化した後はこのような様式の仏像が造立されなくなったという、仏像造立の歴史についてご

教授頂きました。仏像の画像をプロジェクトで撮影してのご講演で、参加者一同佐賀上人の作り出す空間に引き込まれるように拝聴することが出来たのが印象的でした。(しかもその画像は今日のためにご住職が中国まで行って撮影してきたものとのこと！) 今まで身近に感じていながらも気付くことの無かった新しい視点をご教授賜り、まさに「目から鱗」でありました。

研修を終えた後、場所を移して懇親会が行われました。懇親会の冒頭ではこの度初めて行った同期会に関するアンケートの結果報告があり、今後の活動に対して非常に参考になる意見を共有することができました。乾杯の後はこの1年間で起った身の回りの事、結婚、出産等のお祝い事や、日ごろの活動、来年の予定等について報告し合い、終始話題の尽きない懇親会でありました。楽しい時間は本当にあつという間に時間が過ぎてしまい、まだまだ話し足りないというムードの残る中、次回開催場所を長野県に設定した旨の報告と、そこでの再会を誓い、明るい空の下、ほろ酔いの中散会となりました。最後にこの会の開催に際し、お力添えを賜りました方々にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

中村敬ゼミ生一同同窓会

平成22年2月7日、中村敬先生の退任パーティーに参加しました。大正大学を卒業して早くも三年が過ぎようとしており、久しぶりに中村先生やゼミの友人たちに会えると思うと、会場に向かう足も弾みました。池袋のお店で先生をお迎えする際、すで

その他にも多数イスが運び込まれ、一部立ち見が出るほどの盛況でした。本専攻の野田文隆教授が大変ユーモラスに中村敬教授をご紹介いただき大会が始まりました。中村敬教授ご退任の最終講義は、「子どもの幸せを求めて」今、なぜ子育てで応援が必要なのか」と題して行われました。最終講義は「子どもたちは幸せなのだろうか」「親は子育てに幸せを感じているのだろうか」

「幸せを感じるためにはどのようにすればよいか」という問いかけから、子育ての家庭の現状、子どもにとって望ましい環境、ご自身の長い子育て支援の取り組みの実践例から、地域みんなで子育ての支援を担うという視点について勉強させていただきました。

それを受けての記念シンポジウムでは、「子どもの健全な発育を求めて」をテーマにして行われました。シンポジストの各氏はいずれも本学大学院で中村敬教授の指導を受けた方々です。石井栄子氏が「地域における子育て支援拠点事業の実践を通じて」、佐鹿孝子氏が「障害のある子どもとその親のウェルビーイングをめざした支援」、亀田秀子氏が「児童養護施設職員への聞き取り調査から」と題して三氏がそれぞれの報告を行いました。シンポジウムの進行は本学高橋一弘准教授が務めました。地域での子育て支援の取り組みについての興味深い報告、また実践を進めて行くに当たった問題点等について大変実りのあるシンポジウムでした。なお本大会の最終講義やシンポジウムの内容は、本学会誌『鴨台社会福祉学論集第19号』（平成22年3月15日発行）に掲載される予定です。お手に取って拝読されるようお願いいたします。

また大会終了後は懇親会が行われました。今大会は中村敬教授のご退任の記念大会ということもあり、すでに退任をされた多くの先生方も参加されました。卒業生も多く参加し、懇親会の会場は各参加者にとって懐かしい学生時代のゼミの雰囲気を取り戻し、また学生時代に取り組んだ課題や現在の課題などについて改めて先生に教



に先生の両手にはたくさんのお花束があり、先生がどれほど慕われてきたのか改めて感心しました。出席者は中村先生のゼミ卒業生を中心に、40名程。学生時代を思い出して心おきなく楽しむことができ、またなかなかお目にかかることのなかったゼミの先輩方ともお話しする機会を得て、とても貴重な時間となりました。



パーティーの途中で、ゼミの卒業生一同から中村先生へ、ゼミでの旅行や授業の様子などを入れたデジタルフォトをプレゼントさせていただきました。会場のスクリーンには当時の思い出が映像となって甦り、懐かしさに胸を打たれました。また当日の会場の写真も一緒にお渡しすることができました。先生がどなたかお誘いいただき、中村先生から「人を中心にして、40名程。学生時代を思い出して心おきなく楽しむことができ、またなかなかお目にかかることのなかったゼミの先輩方ともお話しする機会を得て、とても貴重な時間となりました。」

奈良吉野山金峯山寺管長 五條師就任祝賀会

平成22年5月6日爽やかな早月晴れの連休が終わり、少し静かになったびわ湖、湖畔雄琴温泉緑水亭に、大正大学で共に学び過ごした同窓生・空手部OB25名が全国各地から集まり、五條覺堯君の祝賀会を行いました。

昨年暮、叡山方面の友人から五條君が吉野山の管長になったとの知らせがあり、す



き、よい記念になったと思います。パーティーの最後に、中村先生から「人のつながりというのはいいですね。またこういうのを企画してね。実は企画して貰うたびに、私は皆さんから生気を貰っているんです」とのお言葉をいただいたのが印象的でした。私も今回参加して、旧友との再会に元気を貰うばかりでなく、新しい方々との出会いの中で、これからの教育のことや仕事のことなどたくさんのお話をさせていただくことができました。これも中村先生からつながる御縁だと感じており、とても感謝しております。

今回、退任という節目の時に大勢の卒業生に囲まれている中村先生を見て、感謝の気持ちと共にうらやましくも感じました。仕事を通じてたくさんの人と出会い、機会を見つけては集まって話ができる。単純なことではありますが、そのような関係が続けていけることはとても幸せなことだと思います。私も将来、中村先生のようにたくさんの人に囲まれ、仕事をしていけたらと思います。

中村敬教授退任記念大会

大正大学社会福祉学会第33回大会が中村敬教授のご退任記念大会として平成22年2月7日に開催されました。

当日は参加者が130名を超え、会場となった1号館2階大会議室は満席となり、

ぐに6、7人が集まり祝いの会をやるということになりました。この時、五條君より3月26日晋山式を行うと聞き、同窓4名と空手部4、5名が随喜いたしました。

祝賀会は夕方6時開宴にして、ホテルに着いたら浴衣に着替え、温泉に入ってからくつろいでやろうと計画しました。卒業して約40年、懐かしい友が次々に顔を見せ、うれしくて、うれしくて思わず手を出して握りしめていました。

同じ空手部に汗を流し、また4年間一緒に生活した鹿田君の司会で会は始まり、飯田先輩の祝辞に続き、それぞれが学生時代の思い出や卒業後歩んできた経験などを交えながら、五條君の管長就任を心から喜び祝いました。宴が進むと、旧友の顔を見つけてはあちらこちらに集まり、楽しげに語りあう姿が見られました。

この度、事務方をさせていただきましたが、出欠の返信が着くたびに、皆さんの気持ちがあひひしと伝わってきました。出席の方々の期待。また仕事で欠席される方の残念でたまらないという気持ち。遅れてくる返信には、日程調整に苦労されながらも、どうしてもみんなに会いたいという強い思いを感じることができました。みなさん有難うございました。最後は校歌を大声で歌い、祝賀会はとて心温まる集いとなりました。

昭和54年度 史学科同期会

昭和51年4月に史学科に入学した同期生に声を掛け、平成22年5月8日(土曜日)に「昭和54年度 史学科同期会」を開催さ



た、「小此木輝之文学部長」「坂本正仁歴史学科長」「厚谷和雄（東京大学史料編纂所准教授）」の先生方にご出席いただき、30数年前にタイムスリップして〈史学科室友会〉〈研修旅行〉等当時を回顧しながら、懐かしい会話で終始した和やかな同期会になりました。同期会に出席した多くが、学び舎の変貌ぶりに驚愕しながら、卒業後30年の月日の経過を懐かしむ1日になったと思います。

大正大学第15期卒業同期会

第15期卒業同期会は、毎年開催地を変えて続けていますが、今年は、兵庫県在住の2人が幹事となり、平成22年5月26日から28日の2泊3日の行程で行いました。今回の企画は「日本のふる里・大和・明日香と熊野路を訪ねて」。26名にご参加いただき、大型観光バスで巡りながら各所の社寺・旧跡を参拝しました。勉強にもなり、楽しく、和やかな同期会でした。

同期会は、遠くは秋田県、茨城県、千葉県、埼玉県、東京都、長野県、石川県、長崎県、佐賀県、福岡県、大分県など、全国各地から懐かしい顔が集まり、JR新大阪駅より観光バスで各地を巡りました。

コースは、まず最初に神武天皇ご即位の場所と言われます「橿原神宮」に参拝し、続いて豊山派総本山・長谷寺に向かい、2年後輩の大野君の案内で、ご本尊「木造十一面観音立像」を拝し、特別ご開帳の「本



尊御影大面軸」を目の当たりに見せて頂きましたが、縦16メートル余りの日本最大級といわれる大面軸に圧倒されました。続いて「大和文化」の発祥地であります「明日香の里」に行き飛鳥文化・白鳳文化の花開いた時代と場所、麩戸皇子（聖徳太子）に思いを馳せながら、明日香を見て回り、石舞台では古代にタイムスリップしたかの

ようでした。折しも、資料館では「キトラ古墳」から発見された「四神」が展示されていまして、参加者は熱心に見学し、驚きの声を上げました。そして1日目の夜は、桜の名所の「吉野山」に泊まり、翌早朝に「金峯山寺」の「蔵王堂」に参拝して、清らかな冷気を浴びました。

2日目は、大台ヶ原の麓を通過して三重県熊野市から那智に向かい、熊野三山の「那智大社」と「天台宗 青岸渡寺（観音霊場西国三十三カ所第一番札所）」の約五百段の階段をふうふう言いながらも元氣よく登り、熊野古道を少しばかり歩いて「那智の大滝」に到着。日本一の「那智の大滝」に見とれ、大滝のしぶきを浴びて元氣を回復し、次には熊野三山の中心地であります「熊野本宮大社」に参拝し、後白河上皇や後鳥羽上皇が何度も訪れ、時宗の開祖・一遍上人は「わが法門は熊野権現夢想の口伝なり」と述べ、熊野信仰を庶民まで広げ、熊野信仰を盛りたて、「蟻の熊野詣」と呼ばれたほど、多くの人が訪れた地を歩き、歴史ある本宮大社の社殿に感嘆の声を上げました。そして、かつての熊野古道沿いにバスは走り、白浜温泉に到着。温泉につかって疲れもとれて、この夜も楽しく賑やかに過ごしました。

3日目は、白浜の「三段壁」を見学し、紀州名産のお土産を求め、途中の和歌山県海南市で「海鮮パーベキュー」の昼食を取って、ふたたびJR新大阪駅に戻り、来年の「同期会」での再会を誓い合っていました。

なお、同期会で大正大学の常任理事であります岡本宣丈師からお手紙を頂き、「創立90周年」に向けて大学が様々な計画を立

皆様方から多大なご協力をいただきましたこと心より感謝いたします。

鴨空会

空手道部OBの集まりである鴨空会は55年の歴史があり、その中に女子部員も40数名おります。特に昨今の女子部員は目覚ましい活躍ぶりです。毎年、鴨空会では総会を始めとし、送別会等と色々な集まりを行っておりますが、日程的なこともあり、ほとんどと言つていいほど女子の参加はありませんでした。そこで女子だけで気軽に食事でも取りながら一度集まってみてはどうかと監督から提案があり、平成22年2月27日に大学近くの中華料理店華興にて13名



の参加で行われました。年令的には20才、40才程の隔たりがあり、初顔合わせもありましたが、瞬間に学生時代に戻り話が尽きなくなりしました。これも同じ釜の飯を食った仲というのでしょうか、大いに食べ、飲み、話が弾み、時が経つのを忘れるほどでした。参加者全員、ぜひこれからも続けていきたいと意見が一致しました。来年はより多くの方々にご参加いただければと思っています。

昭和42年卒業 明照学舎寮

昭和38年大正大学に入学して縁を頂戴し明照学舎において同釜の飯を食らい早や今年で42年を迎えました。

第1回は平成20年12月8日大阪（世話人は藤野芳雄君）において開催し、第2回は平成21年12月8日に箱根（世話人は水野賢世君）において開催されました。

今回は函館での声を受け平成22年6月1日湯の川プリンスホテル渚亭で1泊の予定で計画、案内の所、3名の諸兄が会い集いました。

はじめて参加する同期もいて学生時代の話に華が咲き再会を大いに喜び会い楽しい一時となりました。

その後世界3大夜景の1つである函館山からの夜景を見ました。天気に恵まれ美しい景色に一同感激、函館の良い思い出に

て、教学面と施設面が一層充実されることとが記されていて、文面を披露し報告しますと、同期生一同、かつての恩師や学んだ校舎や寮などの思い出を語り合い、新生なる大正大学の「創立90周年」に向けて協力しあうことを話し合いました。

黒川高明先生を囲む会

平成22年3月をもって定年退職される文学部歴史化学科教授黒川高明先生を囲む会が、平成22年3月27日（土曜日）午後5時より大正大学2号館8階にて開催されました。

黒川先生は、12年間にわたり教鞭を執られ、数多くの学生・大学院生の指導にあたってこられました。この度のご退職に当たり、先生のこれまでの温かいご指導に感謝の気持ちを表すための会を催そうという声があり、先生の薫陶を受けた卒業生達から多数挙がり、我々二人が発起人となって「黒川高明先生を囲む会」を開催する運びとなりました。

当日は、1998年度から2008年度までの卒業生有志（大学院卒業生20名・学部卒業生19名）計39名が出席し、なかには遠方より駆けつけた卒業生もおりました。

まず本学講師福田行慈先生のご挨拶からはじまり、卒業生の代表数名によるスピーチ、そして当日のサプライズとして、黒川先生からのプレゼント大会等もあり大いに盛り上がりしました。

出席者は、先生へそれぞれの近況を報告するとともに、久しぶりに再会した同級生との昔話にも花を咲かせておりました。そ

なった事と思います。

次回は大分県大分市（世話人は阿部信之君）で開催する事を確認し、1人でも多く参加するように来年の参加を誓い合い解散しました。



道心寮第21期生 浄土学寮生 平成22年度同窓会報告

宴会場には、10名を越える参加者によって同窓親睦会が催されました。諸事連絡を取って頂いた松野瑞光君の音

の会は今後も続きます。大学もどうか健全に発展継続して下さることを願います。
※当日、学内を丁寧に案内してくれた職員さん、ありがとうございます。



平成22年度カウセンリング研究所 臨床心理学科交流会報告

カウセンリング研究所・臨床心理学科卒業生と教員、カウセンリング研究所相談員、さらに在校生が集う交流会が、去る10月16日（土）に学内2号館2階学生ラウンジを会場として開催されました。当日は好天にも恵まれ、秋晴れの行楽日和であったにも関わらず、37名の出席者を得ることができました。

今年度は、卒業生から学部生、大学院生



頭で乾杯。

11月28日（日）に結婚式を挙式したばかりの金田昭教君の会話を中心に楽しみました。今回は例年になく、同窓生の寺院での同窓会に盛り上がりました。久しぶりに会った仲間との楽しい会話が花と咲き、4時間半の懇親会もあっという間に過ぎました。

当時の寮官である武智先生・熊井先生の御挨拶により名残惜しくも閉会といたしました。
参加者は来年の再会を約束しつつ会場後にされました。

今回集まった寮生同士で話し合ったところ、都合等で参加頂けなかった方には来年は是非とも誘って参加してもらおうべく、本会を続けていくことを確認し合いました。来年の同窓会も、年末を予定しております。



へと卒業後の話をしていたく時間を設け、とても貴重な交流の場になったのではないかと思います。

また、今年度から准教授としてお迎えした柳田多美先生のご紹介をし、お忙しい中お越しいただいた村瀬嘉代子先生からは、これからの臨床心理士の展望や在り方も含めてご挨拶をいただきました。
今後も、新旧の交流を深め、参加者同士の

道心会(道心寮第15期浄土宗) 研修会報告

道心寮第15期・浄土宗学生は、毎年、研修を伴った同期会「道心会」を開催しています。本年度は10月12日（火）から13日（水）にかけて、千葉県木更津市のホテル三日月龍宮にて開催され、15名が参加しました。



情報交換やネットワーク作りの場として活用いただける会となるよう願っています。

1997年度社会福祉学会

11月3日、社会福祉学専攻の1998年度卒業生で、同窓会を行いました。銀杏祭で賑わう大学の門をくぐり、懐かしさを感じました。2号館7階の見晴らしの良い会場をお借りして、ご指導いただいた石川到寛先生、落合崇志先生、宮崎牧子先生にご出席いただきました。ご多忙のなか、私たちのために時間をとってください、有難うございました。



最初の研修会は、同級生の浄土宗二級法式教師・神尾敏英先生を講師に迎えた「今さら聞けない法式の疑問」。私たちが日常の法務の中で感じていた疑問や問題点について、実演を交えてわかりやすく解説していただきました。また活発な質疑応答がなされ、大変有意義な研修となりました。
研修の後は懇親会です。当時の寮監・和氣昭祐先生にご挨拶をいただいて乾杯懇談、そして参加者が一人ずつ近況報告を行い、にぎやかで和やかな一席となりました。それぞれの立場で活躍する旧友たちとの交流は何よりもよい刺激が得られます。今後とも同級生一同が協力しながら「道心会」を続けて参りたいと思います。

昭和57年度卒業生 (道心寮2期生)「銀杏の会」

昭和57年度卒業生（道心寮2期生）有志の集い「銀杏の会」です。これまで毎年6月頃に同窓会を開催し宗派やコースを超えたつきあいが続いています。入学以来30年が過ぎ、会員の中には2世が大正大学に入学したものも始まったことから、一度大学をみせていただくという学内見学を企画しました。

一新された正門に集合した参加者は皆、大学のあまりの様変わりに驚いていました。「建物が増えた」「きれいすぎる」などなど。最近の学生は恵まれているなというのが共通に感慨でした。
見学後は中華料理「華興」に移動し、懐かしい料理に酒量が進み、学生時代の思い出にも酔い、実に楽しく過ごしました。銀杏

会には21名が参加しました。事前にはメールで友人から友人へ連絡をとり合いました。当日欠席だった方も含め、何人かの方が調整を担ってくれて、同期で会をつくれたのが嬉しかったです。卒業13年目にもかかわらず素早い連絡と集約に、同級生のつながりが継続していたことを実感しました。

旧交をあたため、まだ小さい子どもたちも来てくれて、充実した時間を過ごしました。今回、同じ会場で先輩方の同窓会も行われ、社会福祉の仕事に関する情報交換も出来ました。また、ご出席の先輩からNPO法人でもくらしい運営の「大正さろん」の活動紹介をして頂き、伝統ある地域展開のいまの姿に惹かれました。先生方から最近の動向を伺い、私たちも卒業生として協力できればと思います。こうして母校とのつながりを再確認した貴重な機会となりました。

会の実施にあたって、大学同窓会から補助を頂戴しました。会場や物品の借用など宮崎先生はじめ大学から厚いサポートを頂きました。感謝致します。

昭和60年福祉同窓会

平成22年11月3日秋晴れの銀杏祭に昭和59年度社会福祉学専攻卒業生が集まったのは、25年ぶりの仲間でした。大正大学社会福祉学会の時などに、集まる機会があったものの、昭和60年3月の卒業式以来の同期生もいました。「懐かしい、変わってないね」という言葉が出る前に、お互いの目がうれいと言っていました。



うれしことはそれだけでなく、青森、広島、静岡など各地からメールで、近況報告と写真が寄せられていたことです。みんなでそれを読みながら楽しい時間が過ぎていきました。

また、当日は一回り下の学年と一緒に開催でき、お子さん同伴の卒業生もいてとても賑やかな会場でした。

その上に石川先生、落合先生、宮崎先生にご参加いただいたことで、貴重な一日になりました。先生方ありがとうございました。

を合わせている仲間ではありませんが、いつも話題には事欠かず楽しく時間を過ごしております。

15年間に開催した親睦会は90回を数えます。普段は、年数や回数はあまり意識しておりませんが、ご縁ということの不思議さ、続けてこられたことのがりがたさを皆で共有し、今後もこのつながりを大事にしていこうとの思いを深めることができました。

結びに、今回同窓会から助成金をいただき、ありがとうございます。また、助成金についてご対応いただいた職員の青木さん、本当にありがとうございました。

2007年度テーマ研究 澤口ゼミ生

今回は年末ということもあり、普段あまり行かない韓国家庭料理の店で平成22年12月18日に開催しました。仕事などがあり参加できなかった方もいましたが、ゼミ生18人中12人が出席しました。JR新大久保駅から徒歩5分ほどの場所にある「安辛房」というお店で、料理はチャブチエ、トッポギ、チヂミ、プルコギ、チゲ鍋など代表的な韓国料理をいただき、お酒はマッコリなどをいただきました。

私たち澤口ゼミ生は在学中から仲の良いメンバーで、卒業後も定期的に集まって食事したりしていました。ちなみに平成22年年は、春には花見、夏頃にはマザー牧場や鎌倉、秋には筑波山などにも行きました。今回行なった同期会には卒業以来会っていないメンバーも参加

また先生方と同期のみなさんに再会できることを願っています。

道心寮第20期生浄土学同期会 (開催報告)

平成22年11月15日、寒さ漂う信州は長野県松本の地で道心寮第20期生浄土学同期会による研修会並びに別時念仏会が行われました。今回で第4回目を迎えた研修会並びに別時念仏会は、同期である吉水俊博人の自坊・常照寺を会所として行われました。

研修会は俊博上人の父であられる常照寺御住職・吉水説肇上人(以下、吉水上人)



よりご講義をいただきました。吉水上人は、浄土宗僧侶の他、音楽家としても活躍をされている方です。今回の研修では、吉水上人が18年前の平成4年に1年間経験した松本少年刑務所内旭町中学桐分校での教員生活をもとに『時は今』という議題でご講義をいただきました。

途中で受刑者の学校生活を映像で見せていただきましたが、犯罪を犯し中学を卒業出来なかったことを後悔しながら学校生活を送る受刑者の姿を見て、私たちの生活とは180度違う日常にいろいろな考えさせられ、研修の最後には、椎尾弁匡先生の「時は今」ところ足もと、そのことに「打ち込むのち 永遠のみのち」の言葉に触れ、共存共生の大切さを教えられました。

研修会終了後、常照寺本堂にて俊博上人を導師に参加者全員で別時念仏会を勤めました。寒行といつていいほどの寒い中ではありましたが、ご本尊・阿弥陀如来の御宝前にて、身の引き締まる思いで別時念仏会を勤めさせていただきました。

その後の懇親会は、美ヶ原温泉に場所を移し、大学時代のことやそれぞれの近況を、お酒を酌み交わしながら話し合い、また一つ親睦を深めることが出来ました。

私たちは同じ浄土宗僧侶として、それぞれの地で教化活動をしておりますが、今回の会全体を通して、また一つ大きな経験を一人一人持つことが出来、教化活動の一助となりました。同期が一同に介することは滅多にないことではありますが、お互いに刺激し合う良い機会ですので、今後も出来る限りこの会が継続されていきますことを心から祈念いたします。

奈良薬師寺関東別院である潮音寺の見学を。キネマミニ資料館では、館長からのレクチャーをうけました。短い時間ではありましたが、名所旧跡観光となりました。

最後に、宴会場及び宿泊施設である潮来ホテルで、みんなで入浴後、宴会となりました。今年は、諸事情により4名での開催となりました。それでも、教育の話、近況報告、欠席者からのメッセージ披露、最後には、ホテルの社長からのご挨拶を頂き、宴会(同期会)を終わりました。

なお、来年の幹事は、加藤達男君に決まり、次の日には来年の再会を誓い、ある者は電車で、ある者は車で、ある者は自転車帰途につきました。



蛸の会15周年記念会報告

平成22年12月16日、蛸の会15周年会を開催しました。蛸の会とは、目黒区の手伝いをしていた卒業生(仏教学科1名、史学科9名)が、平成7年に親睦のために立ち上げた会です。2か月に1度、幹事持ち回り制で親睦会を開催してまいりましたが、ついに満15年を迎えることとなり、1泊2日の記念親睦会を、奥湯河原の「海石榴」(つばき)という旅館で行いました。

卒業生と言っても、同期ばかりでなく、年齢構成は上が50の大会に乗った方から下は42才まで、現在の職業も教員や会社経営者そして住職と幅が広く、頻繁に顔

